

2.2 外来種対策活動編

外来種対策活動は、対象分類群ごとに整理しており、外来生物を紹介する「図鑑」と取組内容を紹介する「活動紹介」のページに、以下の内容でまとめられています。

《カルテの見方》

1. 外来生物 図鑑

■生物分類※2 ごとに各種をタブで表示

■外来種の名称・目・科・学名・外来生物ランクを記載

■種の特徴を記載

■外来種の分布と定着の経緯を記載

■外来種が及ぼす影響について記載

■外来種の駆除など、影響に対する対策方法を記載

中部地域における外来魚介類
ブルーギル

スズキ目サンフィッシュ科
学名: *Lepomis macrochirus*
特定外来生物

種の特徴

北アメリカ東部原産。全長25cm。生後約1年目までの幼魚では体形がやや細く、体側には7~10本の暗色横帯がある。成長するにつれ体高が高くなり体色は濃灰褐色から暗褐色に黒ずみ、横帯はやや不明瞭になってくる。湖沼やため池、堀、公園の池などに生息し、湖では主に沿岸帯の水生植物帯に、河川でも主に流れの緩やかな水草帯に生息する。河川の護岸や人工漁礁にもよく集まり、隙間のある構造物を好む。雑食性であり、昆虫類、植物、魚類、貝類、動物プランクトンなどを餌とする。

定着と分布

昭和35年にミシシッピ川産の個体が導入され、昭和40年代後半から意図的な放流により急速に分布を拡大。その後、全国に定着する。

影響

- 日本各地の湖沼やため池、堀などに侵入・定着し、優占魚種の一つとなっている。
- 環境省により選定された「日本の重要湿地500」に取り上げられた水域のなかで、気候条件や塩分条件などにより定着の可能性が想定される259箇所のうち、少なくとも46箇所（18%）に侵入している。
- 滋賀県瀬田月輪大池の例では、ブルーギルが急増した時期にモツゴが激減し、卵・仔稚魚及び成魚の捕食や餌をめぐる競争がモツゴの減少をもたらしたと推察されている。
- 捕食による漁業被害の可能性が示唆されている。また、本種が多く生息する湖沼では多数混獲されることにより操業に著しい支障をきたしている。

対策

- 網漁具、電気ショックポット、水抜き、干出しなどによる駆除
- 産卵回収装置（人工産卵床）による卵・仔魚の駆除
- 防除された魚の持続的利用（食魚としての利用）などの研究

2. 外来種対策活動紹介

■取組内容を記載

■取組内容における、独自の工夫点を記載

■活動成果を記載

■外来種の対策活動の課題を記載

■取組の生態系区分※1 を表示

■団体 No・団体名称・取組タイトルを記載

■取組カテゴリ※3 を表記

■活動地域とマップを表示

■団体の所在県を記載

AOS NPO法人 犬山里山学研究所
外来魚の駆除

愛知県

調査・調査研究 駆除 普及啓発

《活動地域》
犬山市

取組内容

- ◎平成14年度より犬山市の事業として実施し、平成15年度より「おさかなレスキュー」と題して市民参加で駆除を実施しています。
- 対象種：オオクチバス、ブルーギルなど
- 駆除方法：池干し、捕獲
- ◎現在の生物相と将来の流域における生物相を比較することを目的に、平成17、平成18年に生物調査を実施しました。
- ◎調査結果や活動報告を電子化したり、犬山里山センターで展示を行うなど、普及啓発に努めています。

工夫点

- ▶**捕獲時の在来魚取り扱い**
外来魚捕獲時に、在来魚は近接するため池に避難させ負担を軽減しています。
- ▶**他団体との連携**
地域住民、行政、研究機関など様々な機関と連携しながら、活動を推進しています。

交流・連携図

山形の手入れ、放棄水田の利用
ため池の池干し

地元の地産産物

土産や産物の提供・活用
池守制の継続

産物の相互利用

全国的な産物計画・実施

犬山市 研究員
高岡研究
ワンモゴゴの個体群バックアップ

岐阜大学
京都大学里山長観研究所

活動成果

- ★オオクチバスは、平成17年の池干し時に約1000個体確認されたが、平成19年には確認数が0になりました。

活動課題

- ★ブルーギルは平成19年に約900個体になり、平成20年に1個体まで減少しましたが、平成21年に2000個体に増殖しました。増加の原因は、人的放流と見られています。

団体紹介

犬山市周辺において、生物多様性や里山について一般市民が学び、里山の保全と活用を図ることを目的に、行政や研究機関、農業従事者、NPO等多様な主体が協働し活動を展開しています。

設立年：平成17年
組織員：個人19名 3団体
住所：〒464-0061 犬山市大字塚野地大野364
犬山里山学センター一併
URL：http://www.riyama.net/~sat.oyama/
E-mail：c27301@riyama-net.ed.jp (PC)
TEL：0568-45-2121

地元から里山の手入れを行って欲しいという要望があり、生物多様性、里山の風景保全、学びの場の創出という目的のもと活動を行っています。今年度は、地域主導の活動を活性化させていきたいと思っています！

取組を実施する団体の概要を記載

団体の声を記載

■他団体との交流や連携図を表示

※1 生態系区分



※2 生物分類



※3 取組カテゴリ

観察・調査研究

駆除

普及啓発

政策提言



中部地域で問題になっている 外来植物の対策

中部地域においては、東海丘陵要素植物群落や湿地性の希少種など、地域固有種が多く生育していますが、外来植物の移入および定着により、生育環境の競合や遺伝子汚染などが生じ、種が減少するおそれが高まっています。

多くの外来植物が確認されていますが、ここではその一部と外来植物への対策活動事例を紹介します。

■ 外来植物の対策－外来種図鑑

対象種の例		頁
オオキンケイギク	特定外来生物	2-113
オオハングウソウ	特定外来生物	2-114
オオカワヂシャ	特定外来生物	2-115
アレチウリ	特定外来生物	2-116
オオフサモ	特定外来生物	2-117
ハルジオン	要注意外来生物	2-118
アカミタンポポ	要注意外来生物	2-119
スイレン	外来生物	2-120
ユッカラン	外来生物	2-121

■ 外来植物の対策－活動団体

取り組み	活動団体	地域	頁
オオキンケイギクの駆除	金城学院大学	愛知県	2-122
	NPO法人 表浜ネットワーク	愛知県	2-123
スイレンの駆除	水源の森と八竜湿地を守る会	愛知県	2-124
ユッカランの駆除	志摩半島野生動物研究会	三重県	2-125
外来植物の駆除	下呂市環境部環境課	岐阜県	2-126
	達目洞自然の会	岐阜県	2-127
	環白山保護利用管理協会	石川県	2-128
	NPO法人 ウェットランド中池見	福井県	2-129
	NPO法人 中池見ねっと	福井県	2-130

※特定外来生物：もともと日本にはいなかった外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ甚大な影響を及ぼすものとして、外来生物法により指定された種を示します。

中部地域で問題になっている外来植物

オオキンケイギク

キク科

学名：*Coreopsis lanceolata*

特定外来生物

外来種

種の特徴

北アメリカ原産。キク科の多年生草本で、高さは0.3~0.7m程度である。

温帯に分布する。路傍、河川敷、線路際、海岸などに生育する。開花期は5~7月。頭状花。虫媒花。瘦果をつける。

八重咲きの矮生種がふえ、鉢植えや花壇に利用されていた。



写真提供：八千代エンジニアリング

定着と分布

昭和50年代以降、観賞用や強健で冬期のグラウンドカバー効果が高く花枯姿が汚くないなどの理由で、道路の法面緑化用に導入され、全国的に逸出している。

影響

- ・ 岐阜県木曾川でオオキンケイギク等の外来植物を選択的に除去したところ、カワラヨモギ、カワラマツバ、カワラサイコ等の河原に固有の在来種が回復したことから、在来植物の衰退の主要な原因の一つは、外来植物の侵入であることが示された。
- ・ 長野県天竜川では、昭和51年に確認されたオオキンケイギクが最近急速に分布を広げ、固有の希少な植物の減少または消失が確認されたほか、オオキンケイギクによる下層の光環境の悪化による、一年生草本の減少も指摘されている。

対策

- ・ 梅雨時に刈り払いを行い、結実を防除
- ・ 道路の法面緑化等に大量に使用されるケースなどへの、正しい取り扱いの啓蒙

中部地域で問題になっている外来植物 オオハンゴンソウ

キク科
学名：*Rudbeckia laciniata*
特定外来生物

外来種

種の特徴

北アメリカ原産のキク科の多年生草本で、高さは0.5~3m程度にまでなる。温帯に分布する。中部地方以北の寒冷な土地に分布する。路傍、荒地、畑地、湿原、河川敷などに生育する。肥沃で湿った、ときに湧水のあるところに生育する。ブナ帯の湿原に定着することが多い。開花期は7~10月。頭状花。虫媒花。瘦果をつける。

刈り取っても、残った地下部や埋土種子から再生する。



写真提供：八千代エンジニアリング

定着と分布

明治中期に観賞用に導入された。昭和30年に、はじめて野生化が確認され、現在では全国に分布する。岐阜県で大群落がみられる。

影響

- ・ 湿原や溪畔林といった自然度の高い環境に定着し、湿原植物などの貴重な在来植物との競争、駆逐が懸念されている。

対策

- ・ 長期的な駆除対策

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類

中部地域で問題になっている外来植物 オオカワヂシャ

ゴマノハグサ科
学名：*eronica anagallis-aquatica*
特定外来生物

外来種

種の特徴

ヨーロッパ～アジア北部原産のゴマノハグサ科の一年～多年生草本で、高さは0.3～1m。温帯～熱帯に分布し、湖、沼、河川の岸边、水田、湿地に生育する。開花期は4～9月。両性花。蒴果は多数の種子を持つ。種子は風、雨、動物などにより伝播される。根茎で繁殖する。茎の上部に腺毛のあるものをヒメカワヂサとする文献がある。近縁の在来種であるカワヂシャとの形態的違いは、鋸歯が不明瞭でほとんど全縁であること、花が鮮やかな青紫色であることなどである。



写真提供：八千代エンジニアリング

定着と分布

昭和42年に神奈川県相模で採集された。侵入時期は不明とされる。本州（関東・中部地方）で野生化している。水草として輸入・流通はしていない。

影響

- オオカワヂシャはカワヂシャ（準絶滅危惧種）と交雑して雑種ホナガカワヂシャ（*V. × Myriantha*）を形成する。その雑種は発芽能力のある種子を生産することが、野外観察及び人為交配実験から確認されており、在来種の遺伝的攪乱が生じている。

対策

- 積極的な防除または分布拡大の抑制策の検討

中部地域で問題になっている外来植物

アレチウリ

ウリ科

学名 : *Sicyos angulatus*

特定外来生物

外来種

種の特徴

北アメリカ原産のウリ科の一年生草本。生育速度が非常に速いつる性植物で、長さ数～十数mになり、群生することが多い。果実に鋭い棘を密生する。林縁、荒地、河岸、河川敷、路傍、原野、畑地、樹園地、造林地などの日当たりの良い場所を好む。

土壤環境に対する適応性は大きいですが、腐食質の多い沖積地を好むため、有機質の多い汚染河川岸に非常に多い。焼却炉やゴミ集積地付近にも多くみられる。

種子には休眠性があるので土壌シードバンクを形成する。液果は風、雨、動物、人間により伝播される。



定着と分布

昭和 27 年に静岡県清水港で確認された。アメリカやカナダからの輸入大豆に種子が混入したといわれるが、近年では全国の飼料畑や河川敷で多くみられる。

影 響

- ・ アレチウリの現存量と在来植物の種数との関係を調査した結果、アレチウリが大量にある場所では、他の植物がほとんど生育しないことが示された。(長野県千曲川 7 月)
- ・ 全国の河川敷等で大繁茂し、河原の固有種との競合や駆逐が懸念される。

対 策

- ・ 土壌処理剤と、茎葉処理剤や結実前の刈り取りといった機械的防除法の併用による除去
- ・ 茎葉処理剤や、結実前の刈り取りといった機械的防除法の併用による除去
- ・ 河岸を掘削して地盤を低くし、増水時に冠水する場所を創出することによる侵入防止

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類

中部地域で問題になっている外来植物

オオフサモ

アリノトウグサ科

学名：*Myriophyllum aquaticum*

特定外来生物

外来種

種の特徴

南アメリカ原産の抽水性の多年草。水面からの高さは 0.2～0.3m。耐寒性があり、湖沼、河川、池、水路、一部の休耕田など、浅水中に群生する。日本では雌株のみで、種子生産は確認されていない。

栄養繁殖が旺盛で地下茎で繁殖する。日本では殖芽をつくらない。おもに越冬閉鎖的なクリークで、局部的に発生することが多い。



定着と分布

大正9年頃にドイツ人が持参し、兵庫県の池に野生化。現在は、本州以南の各地に見られる。河川の自然復元事業の現場や「ビオトープ」に、水質浄化機能がある等の理由で植栽されたことも分布拡大の一因と思われる。

影 響

- ・ 九州筑後川水系などで、過繁茂した純群落が水流を妨げる等の問題を引き起こしている。
- ・ 茨城県霞ヶ浦では、湖の一部や周辺水路で大繁茂し、在来種への影響が危惧されている。
- ・ 河川の自然復元事業の現場や「ビオトープ」に、水質浄化機能がある等の理由で植栽され、拡散の恐れがある。

対 策

- ・ 被害状況と正しい利用の啓蒙
- ・ 刈り取りなどの駆除

中部地域で問題になっている外来植物 ハルジオン

キク科
学名 : *Erigeron philadelphicus*
要注意外来生物

種の特徴

北アメリカ原産のキク科の一年草～多年草で、高さは 0.3～1 m である。変異が多く、ケナシハルジオン、チャボハルジオン、オオハルジオンなどの報告がある。

水田畦畔、牧草地、路傍、畑地、堤防、荒地などに生育。窒素分の多い場所を好む。

開花期は 4～8 月。頭状花。虫媒花。根茎により繁殖する。瘦果は風、雨、動物、人間により伝播される。アレロパシー作用があるとされる。

日本の侵略的外来種ワースト 100 (IUCN) に選定されている。



外来種

定着と分布

大正 9 年頃に観賞用に導入された。昭和 40 年頃に耕耘機が普及し、除草剤パラコートの使用が始まった頃から関東地方を中心に爆発的に増加し、その後中部地域にも拡大した。

影 響

- ・ 繁殖力や定着力が強く除草剤耐性型があるため、畑地の強害雑草となっており、在来種との競合・駆逐のおそれがある。
- ・ 畑地、樹園地、牧草地、芝地などいたるところにみられる強害草である。
- ・ 昭和 50 年代に除草剤（パラコート）を広く使用したため、耐性型が出現し、生息拡大のおそれがある。

対 策

- ・ 抜き取り、刈り取り、除草剤の散布による防除等
- ・ 除草剤（パラコート）耐性型に対する、ジクワット剤との混合剤の使用

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類

中部地域で問題になっている外来植物

アカミタンポポ (外来タンポポ種群)

キク科

学名: *Taraxacum laevigatum*

要注意外来生物

外来種

種の特徴

ヨーロッパ原産のキク科の多年草で、高さは0.1~0.4m。路傍、空地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地などに生育する。

外来タンポポ種群のなかでも、アカミタンポポが最も市街化された地域にみられる。種内変異が大きく、生態型について検討がなされている。

朔果（そうか）が赤褐色であることが特徴である。（右写真）



定着と分布

明治 37 年に北海道で確認された。食用、飼料、緑化材として導入されるとともに、非意図的移入（輸入物資や牧草に混入）もあるとされる。中部地域全域に分布する。

影響

- ・ 国立公園内の亜高山帯など、自然性の高い場所に侵入し、要注意植物の一つとされている。
- ・ 在来のタンポポ類と競合・駆逐するとされるが、両者は生育環境が異なるとの説もある。
- ・ 在来種との雑種がみられ、遺伝的攪乱が既に広く起こっている。

対策

- ・ 分布拡大の抑制策の検討
- ・ 抜き取り、刈り取り、除草剤の散布による防除等

中部地域で問題になっている外来植物 スイレン属

スイレン科
学名： *Nymphaea*
外来生物

種の特徴

水位が安定している池などに生息し、地下茎から長い茎を伸ばし、水面に葉や花を浮かべる。葉は円形から広楕円形で円の中心付近に葉柄が着き、その部分に深い切れ込みが入る。葉の表面に強い撥水性はない。

多くの植物では気孔は葉の裏側にあるが、スイレンは葉の表側に分布する。根茎から直接伸びる花柄の先端に直径 5-10cm ほどの花をつける。



外来種

定着と分布

日本全国の池や沼に広く分布している。多数の園芸品種が存在し、水生植物として人気であるため、これが野生化したものと考えられる。

影 響

- ・ 繁茂したスイレンによる、在来の水草との競合・駆逐が懸念される。
- ・ 逸出したものが野池にまで広まっているため、スイレンを在来種と認識している人も多く、駆除が遂行されない。

対 策

- ・ 水抜き、池干し、抜き取りなどによる除去
- ・ 外来種の影響と正しい利用の啓蒙活動

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類

中部地域で問題になっている外来植物
アツバキミガヨラン（ユッカラン）

リュウゼツラン科ユッカ属
学名： *Yucca gloriosa*
外来生物

外来種

種の特徴

北アメリカ南部原産の常緑低木。属名でユッカと呼ばれることも多い。元来は半砂漠に生育する植物であるが、温暖な地域で庭園などに植栽されている。

葉は厚い肉質で表面には光沢があり、先は鋭く尖る。長さ 60~80cm。

日本では結実しないが、秋にかなり大きな花を直立させて咲かせ、よく倒れることがあり、そこから根を出すため繁茂しやすい。



定着と分布

文禄 5 年・慶長元年（1596 年）にイギリスに渡り、日本へは明治中期に渡来したといわれている。

影響

- ・ 乾燥に強く、海浜植物群落への影響が懸念されている。

対策

- ・ 海浜植物群落への影響が懸念される場所における、植栽回避と除去

観察・調査研究

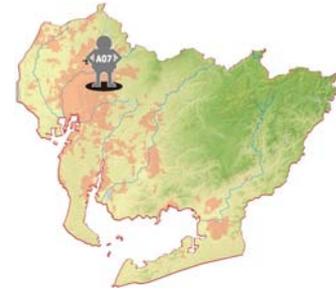
駆除

取組内容

- ◎ 本学キャンパス内に多く自生しているオオキンケイギクの駆除を行っています。
対象種：オオキンケイギク
駆除方法：開花前の刈り取り
- ◎ 学生の卒業研究において「開花前の刈り取りが、その後の花の成長や種子数にどのように影響を及ぼすか」を調査しました。

《活動地域》

名古屋市守山区
大森八竜湿地

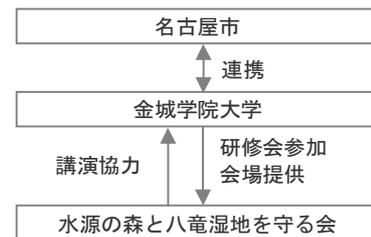


工夫点

官・学・民の協働

土地の所有者である大学が湿地を管理し、名古屋市が木道やフェンスを整備し、地元のボランティアが湿地を含む里山に手をを入れて日常的に管理しています。

官・学・民の3者それぞれが湿地保全の重要性を共有し、各の役割の中で協力し合い、貴重な湿地が保全されています。



活動成果

☆平成21年に学生の卒業研究によって、開花前の刈り取りが一定の効果を持つことが確認されました。

団体紹介

大学に隣接する八竜湿地には、東海丘陵要素植物群が分布しています。この湿地の保全や里山の整備を目的として、地域の団体と協働で保全活動や観察会、また外来種の駆除を行っています。今後は、さらに学生の参加を呼びかけ、里山保全に関する学習や地域、大学間の交流などを進めていく予定です。

設立年：平成21年
構成員：個人 30名
URL：<http://www.kinjo-u.ac.jp/tono/>
住所：〒463-8521 愛知県名古屋市守山区大森二丁目1723
金城学院大学現代文化学部
E-mail：tono@kinjo-u.ac.jp
TEL：052-798-0180 / FAX：052-799-2196

VOICE

大学内の里山保全グループとして発足しました。現在、官・学・民の3者で湿地保全の重要性を共有し、各の役割の中で協力し合い、貴重な湿地を保全しています！



沿岸生態系

A08 NPO 法人 表浜ネットワーク オオキンケイギクの駆除

愛知県

駆除

普及啓発

取組内容

◎巡回調査において、オオキンケイギクを**発見次第、駆除**を行っています。

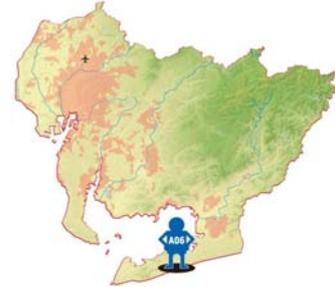
対象種：オオキンケイギク

駆除方法：**発見次第、抜き取り**
種子が出来る前の刈り取り

◎地元企業や中学校での**環境教育**において、**在来種と外来種**の説明を行っています。

《活動地域》

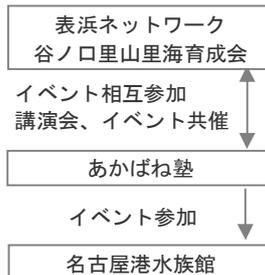
豊橋市（表浜海岸）、田原市（表浜海岸）静岡県湖西市



工夫点

他団体との連携

他団体とのイベント相互参加、共催を行って連携しています。



活動成果

☆駆除により、生育領域の拡大はある程度抑制されています。

団体紹介

表浜海岸を存続・維持するために、アカウミガメを環境問題の指標の一つと位置づけ、海岸の効果的な保護・保全に関する活動や知識の提供、提言をする各地の個人、団体間の有効な情報交換を行うネットワーク組織として活動しています。具体的には、アカウミガメの上陸・産卵調査や堆砂垣などをを用いた養浜活動、シンポジウムや環境教育を実施しています。

設立年：平成17年（NPO法人平成17年取得）
 構成員：個人 38名 2団体
 URL：<http://www.omotehama.net>
 住所：〒441-3124 愛知県豊橋市寺沢町睦美 665-12
 E-mail：office@omotehama.org
 TEL：0532-21-1192 / FAX：0532-21-1192

VOICE

表浜海岸の砂浜保全モデルからや、得られた経験を生かし、今後は沿岸・海洋域の保全に向けて取り組みたいと思っています。海岸で活動している全国の団体と交流を行っていきたいです！



A09 水源の森と八竜湿地を守る会 スイレンの駆除

愛知県

駆除

普及啓発

取組内容

◎平成9年に緑地内のため池にスイレン3~4株が移入され、その後増殖。管理者に除去を願い出たが思うように進まず、平成12年からゴムボートを購入し、除去作業を実施しています。

対象種：スイレン

駆除方法：開花前に、入水して根から除去

処分方法：湿地周辺で完全に枯死させ、廃棄

除去回数：年2~3回

《活動地域》

名古屋市守山区



写真提供：
水源の森の除去活動を守る会

工夫点

移入種への対策

原則として、湿地の生態系を崩す他からの動植物を持ち込まないようルールを設けています。持ち込みがある場合（外来のサギソウ、キショウブ、ヒシ）は、発見次第除去しています。

活動成果

☆水深が2m強ある池の中に入って根を除去する作業は困難ですが、継続的な駆除活動によって、スイレンの完全駆除の目処が立ちはじめました。

団体紹介

八竜湿地は、かつて開発の危機にさらされていましたが、隣接する大学を中心に貴重な湿地を残す保全運動が起こり、大学の土地交換という手段で保全された場所です。その後、緑地内の湿地は放置され、18年後、自然観察指導員6名で湿地を再生させるために会を立ち上げました。名古屋市と共に、フェンスや木道、散策路を設置し、以後、管理保全活動を行ってきました。

設立年：平成5年（平成11年名古屋市愛護会認定）
構成員：個人 40名
住所：〒463-0012 愛知県名古屋市守山区茶臼前 14-34-301
TEL：052-793-3209 / FAX：052-793-3209

VOICE

放置され、遷移しつつあった湿地を1970年代まで回復することを目標に、活動を続けています。除去が難しい外来種のスイレンですが、根気よく続けてあとひと息です！



沿岸生態系

M02 志摩半島野生動物研究会

アツバキミガヨラン（ユッカラン）の駆除

三重県

駆除

取組内容

◎無人島である和具大島で、ウミガメ調査やウチヤマセンニュウの観察会中に、アツバキミヨガランを発見し、7～8年前から駆除を実施しています。

駆除方法：除去

処分方法：焼却処分

活動成果

☆継続的に駆除を行った結果、減少していると感じています。

《活動地域》

松坂～南伊勢



伊勢湾の海岸の様子

団体紹介

ウミガメや多くの野鳥が生息する自然豊かな志摩半島において、何かできることはないかという想いで活動を始めました。志摩半島を中心に、三重県内および伊勢湾や熊野灘の野生動物の生息状況をモニタリングし、野生動物とその生息環境の保護・保全を考え、行動しています。現在のおもな活動は、アカウミガメの産卵状況、伊勢湾におけるスナメリの生息状況、県内に生息する希少動物の確認などの調査です。

設立年：昭和63年
 構成員：個人 60名
 URL：<http://www.shima-yaseiken.sakura.ne.jp/>
 住所：〒517-0704 三重県志摩市志摩町越賀 555 中村方
 E-mail：ikuowaka@amigo2.ne.jp
 TEL：0599-85-3744

VOICE

現在は主にアカウミガメの産卵状況調査や混獲、ストランディング調査のほか、外来種であるユッカランの駆除等も実施しています！

観察・調査研究

駆除

取組内容

◎平成22年10月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約国会議（COP10）に合わせ、下呂市でも特定外来生物を調査した結果、オオキンケイギク、アレチウリ、オオハングウソウの3種類の外来植物が確認されました。

そのため緊急雇用促進事業の補助を活用して募集を行い、平成21年度は4名の方を雇用し、詳細な調査と駆除を実施しました。平成22年度はさらに2名増員し、**駆除と調査**を実施しています。

対象種：オオキンケイギク、アレチウリ、オオハングウソウ

駆除方法：種子の散乱に注意して根元からの引抜き

処分方法：焼却処分

《活動地域》

下呂市内



オオハングウソウの除去作業



オオハングウソウの引抜き作業

写真提供：下呂市環境部環境課

団体紹介

平成22年10月に開催された生物多様性条約国会議に合わせ、特定外来生物を調査したところ、外来植物が確認されました。緊急雇用促進事業の補助を活用し、平成21年度は4名の方を雇用し、詳細な調査と駆除を実施しました。平成22年度は6名の方を雇用し、実施しています。

設立年：平成16年
構成員：個人 6名
URL：<http://www.city.gero.lg.jp/>
住所：〒509-2295 岐阜県下呂市森960
E-mail：info@city.gero.lg.jp
TEL：0576-24-2222(代) / FAX：0576-25-3250(代)

VOICE

緊急雇用促進事業の補助を活用し、外来植物の駆除チームを編成して除去にあたっています！



G09 だちぼくぼら 達目洞自然の会 外来植物の駆除

岐阜県

駆除

普及啓発

取組内容

◎毎月の自然観察会と併せて、除草活動を実施しています。

対象種：ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、アレチヌビトハギ、アメリカセンダングサ、ヒメムカシヨモギ、アレチハナガサ、マメグンバイナズナなど

駆除方法：結実している場合は、種子を飛散させないよう袋に入れて除草
除草は、根を全て除去し、根茎からの再生を防止

◎外来生物写真や、除去のポイントの解説を掲載した外来生物パンフレットを作成し、普及啓発に努めています。

工夫点

生育拡大の防除

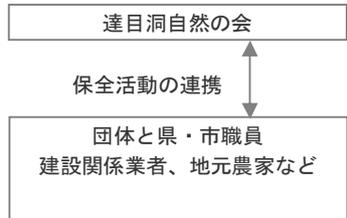
除去は、自然観察ルート上にある外来種を参加者の手で行っています。観察会と併せて、毎月実施することで、生育の拡大を防いでいます。

他団体との連携

平成11年より市民、団体と県・市職員、建設関係業者、地元農家が、共に荒れた里山の保全活動を実施しています。

《活動地域》

岐阜市達目洞6番2地先から達目洞18番1地先までの水路及び岐阜市達目洞21番



団体紹介

県自然環境連合会が達目洞の環境調査を実施、故成瀬亮司氏によりヒメコウホネの生育が確認されたことをきっかけに、保全活動を開始しました。『ヒメコウホネ』の保護を中心に、外来種を駆除、草刈り、自然観察会、環境教育のお手伝いなどの活動を通じて、達目洞の湿地環境を保全しています。

VOICE
達目洞自然の会のメンバーを中心に地域や企業の方々も参加。幼稚園の子ども達も親子で参加しています。今は休耕田をお借りしてお米も作っています。市民の自然とのふれあい、憩いの場づくりを目指しています！

設立年：平成14年（平成4年から活動開始）
（平成16年 岐阜市条例で定める「自然環境保全活動団体」）
URL：http://www.gifu-nature.net/html/org/datsuboku.html
住所：〒502-0053 岐阜市長良宮路町3-20-103
E-mail：kano-k@triton.ocn.ne.jp
TEL：058-294-7671

駆除

普及啓発

取組内容

◎外来種、在来の移入種（高山帯に本来生育しない種）の駆除を実施しています。

対象種：オオハンゴンソウ、アカミタンポポ、フランスギク、オオバコ、スズメノカタビラ、シロツメクサ、フキなど

駆除方法：

- ・オオハンゴンソウは、**全草を根から除去**。湿重量を測定後、県が焼却処分。
- ・フランスギクは、**花茎を切断**
- ・アカミタンポポは、**深く掘って根を全て除去**
- ・オオバコなどは、**林道、登山道周辺に生育するため、その都度除去**。湿重量・乾燥重量を測定後、県が焼却処分
- ・種子などの移入防止のための、**足拭きマットの設置**

《活動地域》

白山国立公園内



白山山頂とお花畑

写真提供：環白山保護利用管理協会

工夫点

👉 ボランティアの募り方

外来種の除去作業だけではなく、除去したオオバコでお茶をつくるなど、イベントを企画しています。

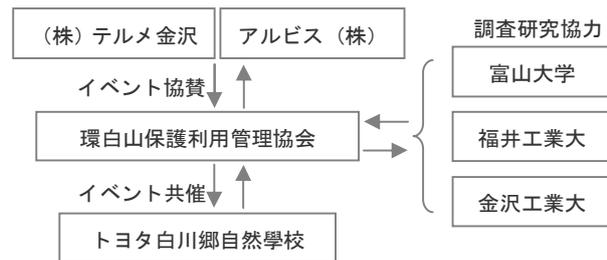
👉 他団体、地域の方々や行政との協力

一般公募による一斉駆除を実施しています。その際は、協会の指導員が参加者へ外来種に関するレクチャーを実施しています。また、個人で駆除を実施できる登録ボランティアには、事前研究会にてレクチャーを実施しています。

また年2回、地域連絡会を開催し、白山周辺の5つの地域の代表が出席する意見交換会を実施しています。



フランスギク除去の様子



団体紹介

国立公園や行政の枠を超え、白山を取り巻く人々が白山を管理、保護、利用に取り組もうと考え設立されました。活動が続ける中で、「環白山」という概念が広まりつつあります。更に、ネットワークを強化し、地域連絡会を支えています。

設立年：平成19年
 構成員：個人 71名
 団体 正会員 47団体 賛助会員 30団体
 URL：http://kan-hakusan.jp
 住所：〒921-2501 石川県白山市白峰ツ57-乙
 白山国立公園センター内
 E-mail：info@kan-hakusan.jp
 TEL：076-259-2811

VOICE

備品の地元購入をはじめ、除去イベント参加者に、周辺の温泉を紹介したり、地元スーパーの企画商品を配布するなど、地域経済との連携も図っています！



F02 NPO 法人 ウェットランド中池見 外来植物の駆除

福井県

駆除

普及啓発

取組内容

◎開発計画および国道バイパス工事、供用開始後に外来植物の侵入が続いており、特に湿地生態系に悪影響が懸念されている種の除去に努めています。その他、自然観察会やガイドを依頼された団体を案内時に事前説明を行い、見かけたら参加者が抜根除去しています。

- ・セイヨウタンポポ
駆除方法：伐根除去
処分方法：種子の産卵防止のため、黒いゴミ袋に入れて密封処理
- ・セイタカアワダチソウ
駆除方法：つぼみをつける前に、抜根除去
処分方法：道路上で天日干しし、車で細粉砕
つぼみを付けた後は種子の産卵防止のため、黒いゴミ袋に入れて密封処理

《活動地域》

敦賀市中池見湿地

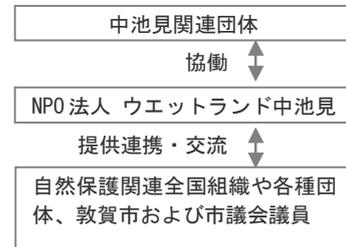


除草の様子

工夫点

他団体との連携

自然保護関連全国組織や各種団体、敦賀市および市議会議員と連携・交流しています。また、中池見関連団体と協働で湿地の管理を行っています。



活動成果

☆外来植物については抜根除去しか効果がないため、人海戦術で実施しましたが、3年継続した結果、減少の効果を実感しています。

団体紹介

中池見湿地の環境保護・保全事業を行ない、自然環境教育の場として社会教育やまちづくりの推進を図ることを目的としています。環境省事業「重要生態系監視地域モニタリング推進事業」里地分野コアサイトとして調査事業5年目で、貴重種保全や外来種駆除等の活動や、学校・各種団体の体験学習や観察会支援等を実施しています。

設立年：平成15年
 構成員：個人 130名
 URL：<http://nakaikemi.jp/>
 住所：〒914-0047 福井県敦賀市東洋町6-37
 E-mail：scasasaki@rm.rcn.ne.jp
 TEL：0770-23-5003 / FAX：0770-23-5003

VOICE

中池見の調査結果が活用され、保全・再生・復元が科学的な根拠を持ったものになることを望んでいます！



F07 NPO 法人 中池見ねっと
外来植物の駆除

福井県

駆除

取組内容

◎国道バイパスの造成とバイパスからの工事用道路などを經由して、湿地内への外来植物の侵入が続いているため、駆除活動を行っています。
対象種：セイタカアワダチソウ、ブタナ
駆除方法：伐根除去

《活動地域》

敦賀市椋曲中池見湿地



工夫点

他団体との連携

「中池見ねっと」は、地元の椋曲区と中池見会、大阪ガス造成の保全エリア管理会社、NPO ウェットランド中池見から個人で参加し、連合組織として設立されました。
また、椋曲区と生物多様性保全協議会の設置と推進を行い、近畿大学から講師を招いて里山保全の学習会を実施しました。平成 22 年度からは、敦賀市と事業委託・受託の関係で、連携しています。



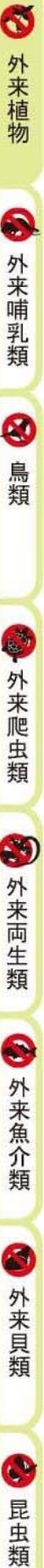
団体紹介

中池見湿地の保全と管理に関する事業を行っています。絶滅危惧種を含む生物多様性の保全及び湿地の持続可能な利用を図り、自然と人間が共生できる豊かな社会の実現を目的として、平成 22 年からは、敦賀市の「市民による中池見の管理・運営・活用事業」を受託して、貴重種保全や外来種駆除等、中池見湿地の保全管理にあたっています。

設立年：平成 20 年
構成員：個人 50 名
URL：<http://www6.plala.or.jp/nakaikeminet/>
住所：〒914-0005 福井県敦賀市椋曲 79 奥堀切
中池見人と自然のふれあいの里気付
E-mail：masuda.sigeru@amber.plala.or.jp
TEL：090-8269-9801 / FAX：0770-22-2723

VOICE

中池見の生き物をお家で飼育したり、アメリカザリガニ防除のかごを 1 年間、無料で引き上げることができる、「中池見キッズいきものサポーター制度」をつくりました。自然の尊さに気づききっかけになれば嬉しいです！





外来植物



外来哺乳類



鳥類



外来爬虫類



外来両生類



外来魚介類



外来貝類



昆虫類



中部地域で問題になっている 外来哺乳類の対策

中部地域では、特定外来生物であるアライグマ、ヌートリア、台湾リスが確認されています。

その中でもアライグマは森林から都市と幅広い生態系に順応し、分布が拡大しています。アライグマはサンショウウオなど希少な野生生物を捕食することでも問題となっており、各地で駆除活動が進められています。

■ 外来哺乳類の対策－外来種図鑑

対象種の例		頁
アライグマ	特定外来生物	2-132

■ 外来哺乳類の対策－活動団体

取り組み	活動団体	地域	頁
アライグマの駆除	水源の森と八竜湿地を守る会	愛知県	2-133

中部地域で問題になっている外来哺乳類 アライグマ

ネコ目アライグマ科
学名 : *Procyon lotor*
特定外来生物



種の特徴

北アメリカ原産。体長約 55cm、体重約 5~8kg、灰褐色の体毛をもち、目のまわりから頬にかけて黒い斑紋がある。長いふさふさとした尾には黒い横縞がある。

水辺近くの森林に生息し、夜行性で、昼間は他の動物が地中に掘った巣穴、木の洞、時には農家の納屋や物置等で休む。

前足を器用に使うことができ、木登りや泳ぎが得意である。雑食性で、両生類、爬虫類、鳥類の卵、昆虫類、甲殻類、果実、さらに畑にあるトウモロコシ等の農作物も食べる。



定着と分布

昭和 50 年以降にペットとしてアメリカから輸入された。飼育放棄され、定着したとされる。40 を超える都道府県で生息し、中部地域では岐阜県・愛知県では繁殖が確認されている。

影 響

- ・ 農作物や錦鯉等の食害が多発している。
- ・ カエル・カメ・サンショウウオ・ネズミなどの小動物類を幅広く捕食する雑食性の上に繁殖力が強いいため、在来生態系に影響を与えている可能性も指摘されている。

対 策

- ・ 無許可での飼育・譲渡・販売の禁止
- ・ カゴ罠、エッグトラップなどによる捕獲駆除

駆除

政策提言

取組内容

◎八竜湿地内には、カスミサンショウウオが生息しているが、アライグマは平成 16 年頃から頻りに姿を見せ、シラタマホシクサの群落内を歩きまわったりするようになったため、名古屋市に捕獲申請書を出し、平成 17 年から捕獲を開始しました。

駆除方法：トラップ設置による捕獲

処分方法：市指定の業者による引取り

《活動地域》

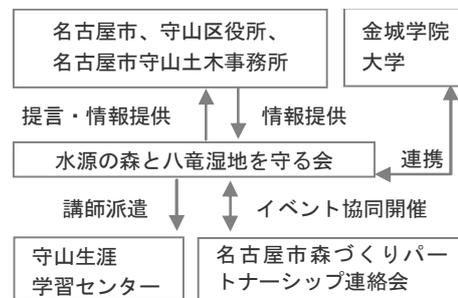
名古屋市守山区



工夫点

他の団体や行政との連携

湿地の保護活動に関して、幅広い自治体、大学、市民団体と連携・交流を行っています。アライグマの処分については、名古屋市指定の業者へ引き取りを依頼しています。



対策成果

☆平成 17 年～平成 19 年にかけて 16 頭捕獲。その後多少減少したものの周辺の住宅地にも現れるようになり、区役所に区全体で捕獲するように提案しています。



捕獲されたアライグマ 2005/08/25
写真提供：水源の森と八竜湿地を守る会

団体紹介

八竜湿地は、かつて開発の危機にさらされていましたが、隣接する大学を中心に貴重な湿地を残す保全運動が起こり、大学の土地交換という手段で保全された場所です。その後、緑地内の湿地は放置され、18 年後、自然観察指導員 6 名で湿地を再生させるために会を立ち上げました。名古屋市と共に、フェンスや木道、散策路を設置し、以後、管理保全活動を行ってきました。

設立年：平成 5 年（平成 11 年名古屋市愛護会認定）
構成員：個人 40 名
住所：〒463-0012 愛知県名古屋市守山区茶臼前 14-34-301
TEL：052-793-3209 / FAX：052-793-3209

VOICE

放置され、遷移しつつあった湿地を 1970 年代まで回復することを目標に、活動を続けています。除去が難しい外来種のスズメですが、根気よく続けてあとひと息です！



外来植物



外来哺乳類



鳥類



外来爬虫類



外来両生類



外来魚介類



外来貝類



昆虫類



中部地域で問題になっている 外来鳥類の対策

中部地域では、特定外来生物であるガビチョウ、ソウシチョウが確認されています。

輸入された飼育個体の逃亡ないし故意の放出が、野外への定着の主因であると考えられ、駆除対策に併せて、飼育と取扱いについての普及啓発が求められています。

■ 外来鳥類の対策—外来種図鑑

対象種の例		頁
ガビチョウ	特定外来生物	2-135
ソウシチョウ	特定外来生物	2-136



外来植物



外来哺乳類



鳥類



外来爬虫類



外来両生類



外来魚介類



外来貝類



昆虫類

中部地域で問題になっている外来鳥類

ガビチョウ

スズメ目チメドリ科

学名 : *Garrulax canorus*

特定外来生物

外来種



種の特徴

東アジア、東南アジア原産。渡りはせず定住的で、ヤブに営巣する。熱帯・温帯の下層植生が発達した環境に広く生息する。

体長約 22~25cm で、嘴と尾が長い。羽色は焦げ茶が主体で、比較的地味。眼の周り及びその後方に眉状に伸びた特徴的な白い紋様を持つ。嘴の色は黄色。大きく複雑な音色でよくさえずる。



定着と分布

輸入された飼育個体の逃亡ないし故意の放出が、野外への定着の主因である。九州と本州で分布を広げている。

影響

- ・ ガビチョウ類の定着が確認されている九州・本州の低地林等の里山的森林において、これらの種が最優占種となり群集構造が著しく変化している。
- ・ ハワイ諸島においてはガビチョウが高密度で生息し、在来鳥類の衰退の一因となることが報告されており、日本においても在来生態系への影響が懸念される。

対策

- ・ 無許可での飼育・譲渡・販売の禁止
- ・ トラップなどによる捕獲駆除
- ・ 飼育及び取り扱いについての啓発活動



外来植物



外来哺乳類



鳥類



外来爬虫類



外来両生類



外来魚介類



外来貝類



昆虫類

中部地域で問題になっている外来鳥類

ソウシチヨウ

スズメ目チメドリ科

学名：*Leiothrix lutea*

特定外来生物

外来種

種の特徴

東アジア、東南アジア原産。渡りはせず、主に標高 1000m 以上の落葉広葉樹林や竹林などの下層部や藪に生息する。日本では下層植生の発達した森林のササ群落中に営巣する。

体色は暗緑色で、のどは黄色く、翼に赤と黄の斑紋があり、嘴は赤い。大きな声でよくさえずる。



定着と分布

化粧品であるウグイス糞の代替品として本種の糞を用いるために輸入された個体や、飼育目的の輸入個体が、逃亡ないし故意に放出され、野外へ定着したと考えられる。九州・四国・本州に定着し、分布を拡大している。

影響

- ・ ハワイ諸島では、本種が侵入した地域で在来のハワイ固有鳥類が衰退したというセンサスデータがあり、日本においても在来生態系への影響が懸念される。
- ・ 本種が優占種になることで、既に群集構造が著しく変化している可能性がある。

対策

- ・ 無許可での飼育・譲渡・販売の禁止
- ・ トラップなどによる捕獲駆除
- ・ 飼育及び取り扱いについての啓発活動



外来植物



外来哺乳類



鳥類



外来爬虫類



外来両生類



外来魚介類



外来貝類



昆虫類



中部地域で問題になっている 外来爬虫類の対策

中部地域では、特定外来生物であるカミツキガメが確認されていますが、広く分布が確認されている種としては、アカミミガメが挙げられます。

アカミミガメは、雑食性で繁殖力が強いいため、在来のカメ類や生態系に影響を及ぼしていると考えられ、駆除をはじめ、飼育に関するマナーの啓蒙など早急な対策が求められています。

■ 外来爬虫類の対策－外来種図鑑

対象種の例		頁
アカミミガメ	要注意外来生物	2-138

■ 外来爬虫類の対策－活動団体

取り組み	活動団体	地域	頁
アカミミガメの駆除	山崎川グリーンマップ	愛知県	2-139



植物



哺乳類



鳥類



爬虫類



両生類



魚介類



貝類



昆虫類

中部地域で問題になっている外来爬虫類

アカミミガメ

カメ目ヌマガメ科

学名：*Trachemys scripta*

要注意外来生物

外来種

種の特徴

アメリカ合衆国から南米大陸北西部原産。頑健で汚染にも強く、都市部のきわめて汚れた河川でも生存できる。

雄より雌の方が大型になる。雄は背甲長 20cm、雌は 28cm、2.5kg 程度。頭部の両脇に目立つ赤い斑が見られる。雄成体では不明瞭になることもある。

繁殖能力が高く、在来の淡水産カメ類よりも産卵数が多い。1回に 20 個を超える卵を産むことがある。



写真提供：八千代エンジニアリング

定着と分布

輸入販売、遺棄が定着の要因と考えられる。全国的に広く定着している。

影響

- ・ 高密度に生息し、在来のカメ類と資源（例えば日光浴の場所や食物等）が重複し、またさまざまな動植物を摂食することから、定着地域では在来のカメ類や水生植物、魚類、両生類、甲殻類等に大きな影響を及ぼしていると想定される。
- ・ 最も大量に輸入されている爬虫類（年間数十万匹から 100 万匹）であり、消耗品扱いされ、多数の個体が遺棄され逸出している。

対策

- ・ 啓蒙活動による、販売、飼育に関するマナーの向上
- ・ 捕獲及び、駆除



A19 山崎川グリーンマップ アカミミガメの駆除

愛知県

観察・調査研究

駆除

普及啓発

《活動地域》

山崎川（石川大橋～可和名橋）

取組内容

◎都市河川である山崎川には、ミシシippia アカミミガメが多数生息しており、それらの存在により激減している在来種を守るため、**外来種駆除**を含めた**生物調査**を実施しています。

対象種：ミシシippia アカミミガメ

駆除方法：**捕獲**

処分方法：一部メンバーで**自宅飼育**、**冷凍殺処分**、**愛知泉大学による引き取り**（個体数が多い場合に依頼）



生物調査の様子



カメ講座

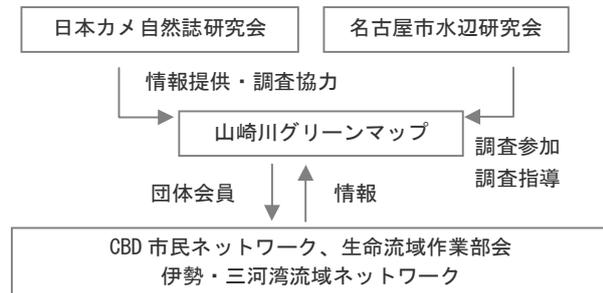
写真提供：山崎川グリーンマップ

工夫点

地域とのつながりをつくる

地域住民の啓発のため、川の生き物の変化について、子ども会のメンバーを中心に、お年寄りへの聞き取り調査を行っています。地域とつながりをつくり、また昔の川の様子について語っていただくなかで、環境の変化に気づいてもらえる機会をつくっています。

交流・連携図



活動成果

☆地域への聞き取り調査により、川の危機的状況の理解が進んでいます。

☆ミシシippia アカミミガメを、約 100 匹捕獲・駆除しました。

☆平成 21 年の確認が 1 個体であったイシガメの生息数が増加しました。

団体紹介

平成 17 年の愛知万博を機に、地元潮路学区の村上北部・南部子ども会で結成した活動団体です。現在は、広く一般にメンバーを募集し、活動しています。地域に生息する在来種の生息地保存を目標に、地域のお年寄りに昔の川の様子を聞き取る取り組みを行っています。ここ数十年で川から姿を消した生き物がたくさんいることがわかってきました。

設立年：平成 17 年
構成員：個人 41 名
URL：<http://www.m1.mediakat.ne.jp/~a-ohya/>
住所：〒467-0008 愛知県名古屋市瑞穂区村上町 1-22-1
E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp
TEL：052-841-6048 / FAX：052-841-6048

VOICE

子どもたちによる、お年寄りへの川の聞き取り調査を行っています。川の様子が大きく変化していることがわかってきました。川の危機的状況を理解していただく良い機会にもなっています！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



中部地域で問題になっている 外来両生類の対策

中部地域では、特定外来生物であるウシガエルが確認されています。

ウシガエルは、現在日本各地に定着していますが、極めて捕食性が強く、昆虫やザリガニの他、小型の哺乳類や鳥類、爬虫類、魚類までも捕食することから、生態系への影響が懸念されています。

■ 外来両生類の対策－外来種図鑑

対象種の例		頁
ウシガエル	特定外来生物	2-141

■ 外来両生類の対策－活動団体

取り組み	活動団体	地域	頁
ウシガエルの駆除	豊田市自然観察の森	愛知県	2-142

中部地域で問題になっている外来両生類

ウシガエル

カエル目アカガエル科

学名：*Rana catesbeiana*

特定外来生物

外来種



種の特徴

アメリカ東部・中部、カナダ南東部原産。大型で極めて捕食性が強く、口に入る大きさであれば、ほとんどの動物が餌となる。日本のみならずアメリカ合衆国でも最大のカエルで、頭胴長 183mm に達する。水生傾向が強く、後肢の水かきはよく発達する。幼生も大型で、全長 150mm になる。貪欲な捕食者で、昆虫やザリガニの他、小型の哺乳類や鳥類、爬虫類、魚類までも捕食する。

IUCN の「世界の侵略的外来種ワースト 100」及び日本生態学会の「日本の侵略的外来種ワースト 100」に選定されている。



定着と分布

食用として養殖された個体が逃げ出し、北海道南部から沖縄県、小笠原諸島に至る広い範囲に定着している。

影響

- ・ 肉食性で極めて捕食性が強く、昆虫類、節足動物、甲殻類、魚類、両生類、小型爬虫類、鳥類、小型哺乳類なども捕食するため、在来種の減少及び、生態系への影響が懸念される。
- ・ 鳴声は非常に大きく、数キロメートル離れていても聞こえることもあり、時に騒音として問題になる。

対策

- ・ 成体、幼体、卵塊の捕獲、駆除



A10 豊田市自然観察の森 ウシガエルの駆除

愛知県

駆除

普及啓発

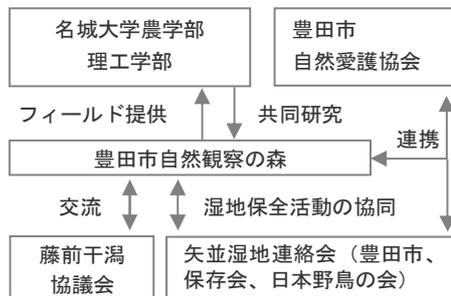
取組内容

◎ウシガエルの駆除を実施しています。
 駆除方法：水抜き、捕獲
 処分方法：成体は冷凍庫に入れて処分

工夫点

他団体との連携

湿地を保全する連絡会の設立など、他団体と連携・交流を深めています。



《活動地域》

豊田市自然観察の森



豊田市自然観察の森

活動成果

☆ウシガエルの成体 241 個体、幼生多数、8 卵塊を駆除しました。

団体紹介

市民が気軽に自然に親しみながら自然のしくみや機能を学び、自然保護について考える場とする目的で、環境省の指導と補助により平成2年に開設しました。現在は、サシバのすめる森づくりをテーマに、里山環境の保全や湿地植物群、トンボ等の保全、外来種の駆除活動を実施するとともに、自然環境学習の拠点として普及啓発活動を実施しています。

設立年：平成2年
 構成員：個人9名 3団体(約100名)
 住所：〒471-0014 愛知県豊田市東山町4丁目1206-1
 URL：http://www.toyota-kansatsu.com/
 E-mail：toyota@wbsj.org
 TEL：0565-88-1310 / FAX 0565-88-1311

VOICE

愛知県では初となる、人工産卵床の設置を実施し、オオクチバス、ブルーギル駆除に成果をあげています。

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



中部地域で問題になっている 外来魚介類の対策

中部地域では、特定外来種であるオオクチバス、コクチバス、ブルーギルの分布が拡大し、在来の生物や生態系、また漁業への深刻な被害が広がっています。

各地で対策が取られており、一部のため池などの閉鎖水域では対策効果が上がっているものの、旺盛な繁殖力や人為的な放流などにより、完全な駆逐には至らないという状況が続いています。

■ 外来魚介類の対策－外来種図鑑

対象種の例		頁
ブルーギル	特定外来生物	2-144
コクチバス	特定外来生物	2-145
オオクチバス	特定外来生物	2-146
アメリカザリガニ	要注意外来生物	2-147

■ 外来魚介類の対策－活動団体

取り組み	活動団体	地域	頁
外来魚の駆除	NPO法人 犬山里山学研究所	愛知県	2-148
外来魚の駆除	豊田市自然観察の森	愛知県	2-149
外来魚介類の調査・駆除	名古屋市水辺研究会	愛知県	2-150
外来魚の啓発	名古屋市東山動植物園	愛知県	2-151
外来魚の駆除	碧南海浜水族館	愛知県	2-152
外来魚の駆除	矢田・庄内川をきれいにする会	愛知県	2-153
外来魚の駆除	木曾三川フォーラム	岐阜県	2-154
外来魚の駆除	岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ	岐阜県	2-155
外来魚の駆除	NPO法人 リバーキーパージャパン	岐阜県	2-156
外来魚の駆除	東海タナゴ研究会	三重県	2-157
外来魚の駆除	水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座	三重県	2-158
外来魚の駆除	宮川用水土地改良区 管理課	三重県	2-159
外来魚の駆除	NPO法人 流域環境保全ネットワーク	三重県	2-160
外来魚介類の駆除	石川県夕日寺健民自然園	石川県	2-161
外来魚の駆除	鴨池観察館友の会	石川県	2-162
外来魚介類の駆除	水辺と生き物を守る農家と市民の会	福井県	2-163
外来魚の駆除促進	若狭町産業課	福井県	2-164
アメリカザリガニの駆除	石川の里山生物多様性保全再生事業推進協議会	石川県	2-165
アメリカザリガニの駆除	NPO法人 ウェットランド中池見	福井県	2-166
アメリカザリガニの駆除	NPO法人 中池見ねっと	福井県	2-167

中部地域で問題になっている外来魚介類

ブルーギル

スズキ目サンフィッシュ科
学名：*Lepomis macrochirus*
特定外来生物

外来種

種の特徴

北アメリカ東部原産。全長25cm。生後約1年目までの幼魚では体形がやや細く、体側には7～10本の暗色横帯がある。成長するにつれ体高が高くなり体色は濃灰褐色から暗褐色に黒ずみ、横帯はやや不明瞭になってくる。

湖沼やため池、堀、公園の池などに生息し、湖では主に沿岸帯の水生植物帯に、河川でも主に流れの緩やかな水草帯に生息する。河川の護岸や人工漁礁にもよく集まり、隙間のある構造物を好む。

雑食性であり、昆虫類、植物、魚類、貝類、動物プランクトンなどを餌とする。



定着と分布

昭和35年にミシシッピ川産の個体が導入され、昭和40年代から意図的な放流により、急速に分布を拡大。その後、全国に定着している。

影響

- ・ 日本各地の湖沼やため池、堀などに侵入・定着し、優占魚種の一つとなっている。
- ・ 環境省により選定された「日本の重要湿地 500」に取り上げられた水域のなかで、気候条件や塩分条件などにより定着の可能性が想定される259箇所のうち、少なくとも46箇所（18%）に侵入している。
- ・ 滋賀県瀬田月輪大池の例では、ブルーギルが急増した時期にモツゴが激減し、卵・仔稚魚及び成魚の捕食や餌をめぐる競争がモツゴの減少をもたらしたと推察されている。
- ・ 捕食による漁業被害の可能性が示唆されている。また、本種が多く生息する湖沼では多数混獲されることにより、操業に著しい支障をきたしている。

対策

- ・ 網漁具、電気ショッカーボート、水抜き、干出しなどによる駆除
- ・ 産着卵回収装置（人工産卵床）による卵・仔魚の駆除
- ・ 防除された魚の持続的利用（食魚としての利用）などの研究



外来植物



外来哺乳類



鳥類



外来爬虫類



外来両生類



外来魚介類



外来貝類



昆虫類

中部地域で問題になっている外来魚介類

コクチバス

スズキ目サンフィッシュ科
 学名：*Micropterus dolomieu*
 特定外来生物

外来種

種の特徴

北アメリカ原産。通称ブラックバス。全長 30~50 cm。オオクチバスに似るが、口は小さくて上あごの後端が眼の中央下まで達しない

湖沼や河川の中下流域に生息する。低水温に対する耐性が強く、また流水域にも適応できる。

北米での報告によると、雌 1 匹当たりの抱卵数は 5,000 ~ 14,000 個であり、体サイズの大きな雌ほど多くの卵を産む。



定着と分布

釣魚として人気種であり、各地で意図的な放流が行なわれてきた可能性も指摘されている。一部の観賞魚店では販売されていた。

影響

- ・ 日本各地の湖沼やため池、堀などに侵入・定着し、優占魚種の一つとなっている。
- ・ カナダの湖、南アフリカでは本種の導入後、その強い捕食圧により在来種の減少を含む魚類群集構造の変化が報告されている。
- ・ 長野県の青木湖や野尻湖では、1980年代までにオオクチバスが定着して優占するようになったあと、1990年代に入りコクチバスが優占するようになっており、両種による在来生物相への影響が懸念されている。
- ・ 捕食による漁業被害の可能性が示唆されている。

対策

- ・ 被害の実態やリリース禁止などの啓蒙活動
- ・ 水抜き、干出しなどによる駆除
- ・ 産着卵回収装置（人工産卵床）による卵・仔魚の駆除

中部地域で問題になっている外来魚介類

オオクチバス

スズキ目サンフィッシュ科
学名：*Micropterus salmoides*
特定外来生物

外来種

種の特徴

北アメリカ原産。通称ブラックバス。全長 30～50cm。上あごの後端が眼の後縁の直下よりも後方に達する。体側から背にかけて不規則な暗斑がある。腹側は黄味を帯びた白色。湖沼やため池、河川の中下流域に生息する。

北米での報告によると、雌一匹当たりの抱卵数は 2,000～145,000 個であり、体サイズの大きな雌ほど多くの卵を産む。



定着と分布

釣魚として人気種であり、各地で意図的な放流が行なわれてきた可能性も指摘されている。一部の観賞魚店で販売もされていた。

影響

- ・ 環境省「日本の重要湿地 500」に取り上げられた水域のなかで気候条件や塩分条件などにより定着の可能性が想定される 259 箇所のうち、少なくとも 69 箇所（27%）に侵入。
- ・ オオクチバス等の侵入後に希少種の生息が確認できない等、在来魚の種数が減少したり、個体数が激減したりしている例が多数あり、いくつかの魚種では全長分布が大型個体に偏るなど、著しい魚類群集構造の変化が確認されている。
- ・ 捕食によるトンボ類への影響はじめ、強い捕食圧により生物群集が様々な間接的な影響を受けている可能性も指摘されている。

対策

- ・ 釣り、投網、さし網、定置網、地びき網などによる捕獲、水抜き・干し出しによる駆除
- ・ 被害の実態やリリース禁止などの啓蒙活動
- ・ 産着卵回収装置（人工産卵床）による卵・仔魚の駆除



外来植物



外来哺乳類



鳥類



外来爬虫類



外来両生類



外来魚介類



外来貝類



昆虫類

中部地域で問題になっている外来魚介類 アメリカザリガニ

エビ目アメリカザリガニ科
学名：*Procambarus clarkii*
要注意外来生物

種の特徴

北アメリカ原産。都市部から里山の水田、用水路、ため池、河川緩流域、湖沼などの浅所に生息。雑食性で水草、水生昆虫などの底生生物、動物の死骸などを捕食する。高水温で低酸素の環境にも耐えることができ、水質汚濁にも強い耐性がある。水田の水がなくなっても、巣穴を掘って潜り込み、隣接する用水路やため池等へ逸出。冬季は、巣穴で冬眠する。

雌親が卵や幼生を保護するため、発育初期における捕食を回避する。



写真提供：八千代エンジニアリング

外来種

定着と分布

昭和2年に、ウシガエルの餌として導入されたこととされ、全国各地に定着している。

問題・課題

- ・ 他の水生小動物等を捕食するなど、陸水生態系に大きな影響を及ぼしている可能性が指摘されている。特に希少な水草や水生昆虫への影響が懸念される。
- ・ ザリガニカビ病を媒介し、他のザリガニ類の生存に深刻な影響を与える。
- ・ 本種が存在する水域では、イモリの繁殖行動が制限されることが報告されている。
- ・ 湖沼生態系のキーストーン種として位置づけられており、生態系に与える影響は大きい。
- ・ 意図的な放流により各地で本種が定着したとされ、最も身近なペット（色彩変異個体を含む）として多数が飼養されている。

主な保全活動

- ・ 水抜き、カゴ縄などによる駆除
- ・ 被害の実態や正しい取り扱いなどの啓蒙活動



農地生態系

A05 NPO 法人 犬山里山学研究所 外来魚の駆除

愛知県

観察・調査研究

駆除

普及啓発

取組内容

- ◎平成 14 年度より犬山市の事業として実施し、平成 17 年度より「おさかなレスキュー」と題して市民参加で駆除を実施しています。
対象種：オオクチバス、ブルーギルなど
駆除方法：池干し、捕獲
- ◎現在の生物相と将来の流域における生物相を比較することを目的に、平成 17 年、平成 18 年に生物調査を実施しました。
- ◎調査結果や活動報告を冊子化したり、犬山里山センターで展示を行うなど、普及啓発に努めています。

《活動地域》

犬山市



工夫点

捕獲時の在来魚取り扱い

外来魚捕獲時に、在来魚は近接するため池に避難させ負担を軽減しています。

他団体との連携

地域住民、行政、研究機関など様々な機関と連携しながら、活動を推進しています。

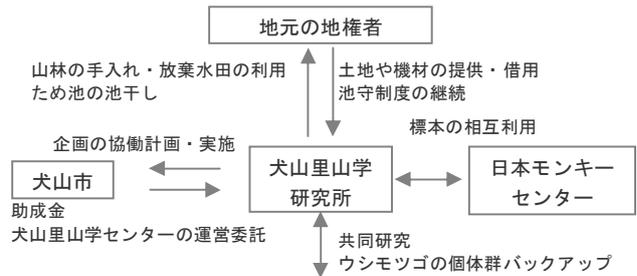
活動成果

☆オオクチバスは、平成 17 年の池干し時に約 1000 個体確認されたが、平成 19 年には確認数が 0 になりました。

活動課題

★ブルーギルは、平成 19 年度約 900 個体になり、平成 20 年度 1 個体まで減少しましたが、平成 21 年 30000 個体に増殖しました。増加の原因は、人的放流と見られています。

交流・連携図



岐阜大学
京都大学霊長類研究所



犬山里山センター

団体紹介

犬山市周辺において、生物多様性や里山について一般市民が学び、里山の保全と利活用を図ること目的に、行政や研究機関、農業従事者、NPO 等多様な主体が協働し活動を展開しています。

設立年：平成 17 年
構成員：個人 70 名 3 団体
住所：〒464-0061 犬山市大字塔野地大畦 364
犬山里山学センター一気付
URL：<http://www.inuyama.net/~satoyama/>
E-mail：c27301@gifu-net.ed.jp (代)
TEL：0568-65-2121

VOICE

地元から里山の手入れを行って欲しいという要望があり、生物多様性、里山の風景保全、学びの場の創出という目的のもと活動を行っています。今後は、地域主導の活動を活発化させていきたいと思っています！



A10 豊田市自然観察の森 外来魚の駆除

愛知県

駆除

普及啓発

取組内容

- ◎外来魚および、外来魚の卵の駆除を実施しています。
対象種：オオクチバス、ブルーギルなど
駆除方法：ため池の水抜き、捕獲、人工産卵床の設置と卵の除去
処分方法：空気中に放置
- ◎外来生物のパネルを作成し、ネイチャーセンターで普及活動を行っています。



豊田市自然観察の森



《活動地域》

豊田市自然観察の森



オオクチバスの除去の様子

写真提供：下）豊田市自然観察の森

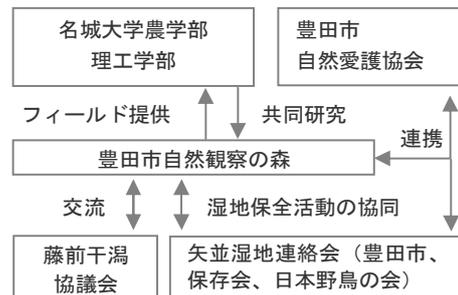
工夫点

📢 新たな駆除方法の導入

愛知県では初となる、人工産卵床の設置を実施しました。

📢 他団体との連携

湿地を保全する連絡会の設立など、他団体と連携・交流を深めています。



活動成果

- ☆外来魚の駆除後、カイツブリが18年ぶりに繁殖をはじめました。
- ☆平成21年に、オオクチバスが人工産卵床15ヶ所（958卵）に産卵し、卵を駆除しました。
- ☆平成21年に、ブルーギルが人工産卵床1ヶ所（624卵）へ産卵し、卵を駆除しました。

団体紹介

市民が気軽に自然に親しみながら自然のしくみや機能を学び、自然保護について考える場とする目的で、環境省の指導と補助により平成2年に開設しました。現在は、サシバのすめる森づくりをテーマに、里山環境の保全や湿地植物群、トンボ等の保全、外来種の駆除活動を実施するとともに、自然環境学習の拠点として普及啓発活動を実施しています。

設立年：平成2年
構成員：個人9名 3団体（約100名）
住所：〒471-0014 愛知県豊田市東山町4丁目1206-1
URL：http://www.toyota-kansatsu.com/
E-mail：toyota@wbsj.org
TEL：0565-88-1310 / FAX 0565-88-1311

VOICE

愛知県では初となる、人工産卵床の設置を実施し、オオクチバス、ブルーギル駆除に成果をあげています！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



陸水生態系

A11 名古屋市水辺研究会 外来魚介類の調査・駆除

愛知県

観察・調査研究 駆除 普及啓発

取組内容

- ◎外来魚の調査、駆除、環境学習指導（小学校総合学習、水辺教室など）、地域住民への聞き取り調査を実施しています。
- ◎外来種を含めた河川生態系に関する、シンポジウム、研究発表会、書籍出版を行っています。

《活動地域》
 名古屋市内、瀬戸市、春日井市、尾張旭市、犬山市、小牧市、各務原市、岐阜市



工夫点

水辺の専門家として広く活動
 河川生態系の調査研究活動を行いながら、水辺の専門家として環境学習、環境保全の活動を指導しています。また、外来魚の実態調査を実施しながら、行政や自治体への働きかけも行っています。

活動成果

☆名古屋市内の主要河川（香流川、堀川、山崎川、矢田川、庄内川）を調査し、以下の外来魚の生息を確認しました。

オオクチバス、ブルーギル、カタヤシ、グッピー、ガーパイクの一種、カムルチー、タイワンドジョウ、チョウセンブナ、ナイルティラピア、タウナギ、タイワンシジミ、外来ウズムシ

団体紹介

河川生態系の調査研究と環境学習指導を重点活動としており、活動地域は名古屋市周辺自治体や岐阜市に及びます。ホトケドジョウ、サンショウウオ等の貴重種の生息環境の保全、調査、普及啓発や、オオクチバス、ブルーギル等の外来種の調査、駆除、地域住民への聞き取り調査による意識啓発などの活動を行っています。

代表：國村 恵子
 平成7年 名古屋市水辺研究会創設、平成14年「川に遊び 川に学ぶ」発刊
 平成15年「庄内川を見つめよう」名古屋市広報連載、平成16年「愛知用水モニタリング事業報告」発刊
 平成17年「国際博覧会会場周辺水辺環境調査事業」監修、平成19年「全国水シンポジウム市民実行委員会」委員長
 平成20年「香流川水辺マップ」監修
 他に、堀川水環境改善協議会、愛知県河川整備計画流域委員会、愛知県移入種検討委員会、あいち環境学習推進協議会、海上の森運営協議会、山崎川流域委員会等の各委員など

設立年：平成7年
 URL：http://www15.ocn.ne.jp/~mizube/
 住所：〒462-0804 愛知県名古屋市北区上飯田南町4-1-3
 E-mail：mizube@axel.ocn.ne.jp
 FAX：052-915-1209

VOICE
 小学校総合学習において実施される、校区の川での体験学習への協力と指導を行っています。調査研究と環境学習活動の対象河川は、60河川に及んでいます！



A13 名古屋市東山動植物園
外来魚の啓発

愛知県

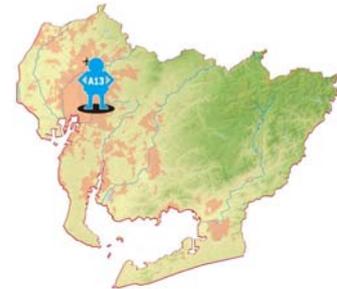
普及啓発

取組内容

- ◎メダカとカダヤシの違いや外来種としての経緯を説明する看板を設置しています。
- ◎来園者に外来種が在来種に与える影響などを普及啓発し、市民への意識を高めています。
- ◎「名古屋メダカ応援キッズ2010」を開催時に実施したメダカ飼育講習会では、外来種の影響について学習の機会を持ちました。

《活動地域》

東山動物園内
世界のメダカ館



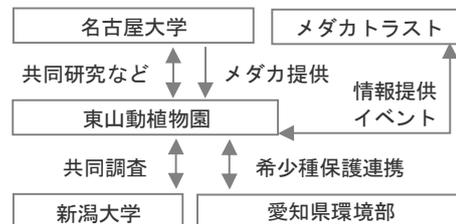
工夫点

イベントと併せた学習機会

「名古屋メダカ応援キッズ2010」を企画し、メダカの里親プロジェクトを実施しています。本プロジェクトの一環である「メダカ飼育講習会」で、外来種の影響について学習の機会をつくっています。

他団体との連携

名古屋大学からメダカの提供をいただき、同大学や新潟大学と、共同研究を行っています。また、メダカトラストとイベントを共催したり、情報交換を行っています。



団体紹介

世界のメダカ館では、ニホンメダカが本来生息している田んぼの風景を再現し、また庄内川の上流から河口・干潟までの多様な環境の中で生活する身近な水生生物や希少淡水魚類などを展示しています。メダカの現状や生態、カダヤシ等の外来種が在来種に与える影響などを普及啓発し、地域市民へ希少種保護の意識を向上させています。

設立年 : 昭和12年
 構成員 : 個人 68名
 URL : <http://www.higashiyama.city.nagoya.jp>
 住所 : 〒464-0804 名古屋市千種区東山元町3-70
 E-mail : higashiyama@ryokuseidoboku.city.nagoya.lg.jp
 TEL : 052-782-2111(代) / FAX : 052-782-2140

VOICE

2009年には、春休み特別展「みんなで考えよう外来種展」を開催しました。問題になっている外来種について関心を持って貰えるきっかけづくりを行っています！

外来植物
 外来哺乳類
 鳥類
 外来爬虫類
 外来両生類
 外来魚介類
 外来貝類
 昆虫類



陸水生態系

A16 碧南海浜水族館 外来魚の駆除

愛知県

普及啓発

取組内容

- ◎水族館内に外来生物の及ぼす影響についてパネル等で紹介しています。
 - ◎遠足や社会見学の児童を対象に、水族館学習プログラムを用意し、外来種の普及啓発に努めています。
 - ◎小学生対象の夏期講座で外来生物を採集、解剖し、どのような生物を食べ自然界にどんな影響を与えているかを考えてもらう体験学習講座を実施しています。
- 駆除方法：捕獲
処分方法：冷凍などによる安楽死、殺処分

《活動地域》

愛知県碧南市碧南水族館



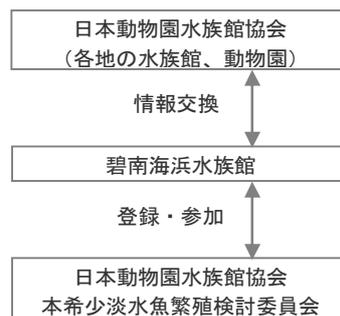
工夫点

他団体との連携

日本動物園水族館協会のなかにある、希少淡水魚飼育下保存に取り組む委員会「日本希少淡水魚繁殖検討委員会」に参加し、情報交換に努めています。

水族館学習プログラム

小学校4年生以上を対象に、スライドを見ながら、メダカとカダヤシの違いや生態について、またブラックバスやブルーギルについての現状や問題点を解説しました。



団体紹介

希少種の保全活動として、ウシモツゴ、カワバタモロコの繁殖保護、ネコギギの生息状況調査及び飼育、繁殖を行っています。このほか外来種については、パネル等を用いた啓発活動や、小学生を対象に外来種の採取、解剖を行うなどの環境学習を実施しています。

設立年：昭和57年
 構成員：個人 18名
 URL：<http://www.city.hekinan.aichi.jp/aquarium/>
 住所：〒447-0853 愛知県碧南市浜町2-3
 TEL：0566-48-3761 / FAX：0566-41-7288

VOICE

外来生物を採集、解剖し、どのような生物を食べ自然界にどんな影響を与えているかを考えてもらう体験学習講座を実施しています！



A18 矢田・庄内川をきれいにする会 外来魚の駆除

愛知県

駆除

普及啓発

取組内容

- ◎矢田・庄内川をきれいにする会の事業として、水分橋下流での魚釣り大会を35年間実施しています。その過程で捕獲された外来種を駆除しています。
- ◎魚釣り大会で、外来種講座を実施しています。
- ◎庄内川水系にアユ遡上100万匹大作戦を開始していますが、その調査の過程で捕獲した外来種を駆除しています。

《活動地域》

名古屋市守山区中志段味
才井戸流れ



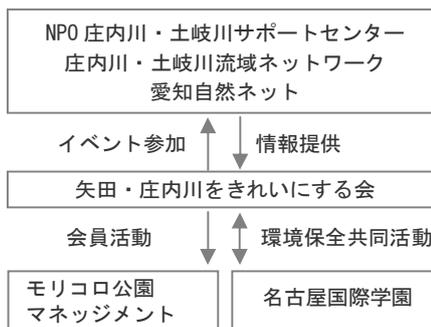
工夫点

他団体との連携

名古屋国際学園などの大学と連携し、保全活動を継続するほか、他団体へのイベント参加を行っています。

イベントと併せた駆除と啓発

魚釣り大会や、アユ遡上100万匹大作戦など、川とふれあうイベントに併せて、外来種の駆除と啓発活動を行っています。



活動成果

☆活動が評価され、「日本水大賞」及び「環境大臣賞」を受賞致しました。



魚釣り大会イベントの様子



魚釣り大会 表彰

写真提供：矢田・庄内川をきれいにする会

団体紹介

庄内川水系の汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐことを目的としています。河川の浄化を訴えて35年間魚釣り大会を実施し、アユ遡上100万匹大作戦、川の健康診断として外来種を含む生き物調査・水質検査、名古屋市有数の湧水地である才井戸流れの環境保全活動、ホタル観察会等を実施しています。

設立年：昭和50年
 構成員：個人 103名
 URL：<http://www10.atpages.jp/kireinisurukai/hara1.html>
 住所：〒463-0080 愛知県名古屋市守山区川西1-1304
 E-mail：cs6ibbvr@na.commufa.jp
 TEL：052-794-3876 / FAX：052-796-2344

VOICE

庄内川水系の汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐことを目指します！

外来植物
 外来哺乳類
 鳥類
 外来爬虫類
 外来両生類
 外来魚介類
 外来貝類
 昆虫類



陸水生態系

G05 木曾三川フォーラム 外来魚の駆除

岐阜県

駆除

普及啓発

政策提言

取組内容

- ◎21年度に、財団の助成を得て、木曾川3箇所、長良川支流1ヶ所、揖斐川支流1ヶ所で**市民参加の駆除イベント**を開催しました。
- ◎岐阜市で、市民150人規模の「特定外来生物移入防止研修会」をパネルディスカッション形式で開催しました。
- ◎外来魚の生息環境に着目し、流速の小さいワンド等では駆除可能と考え**河川環境管理財団に駆除実験を提案し**※、平成22年度に調整池等5カ所で**市民参加の駆除実験を計画**しています。

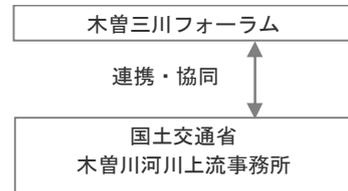
※国交省の調査で、木曾三川中流域30地点の内18箇所で特定外来魚の生存が確認されていますが、河川の外来魚駆除は実施された例も稀有で、駆除不可能と放置されてきました。



もんどり網による捕獲

《活動地域》
木曾三川流域

交流・連携図



市民参加の駆除イベント

写真提供：木曾三川フォーラム

活動成果

- ☆駆除不可能とされていた外来魚対策に駆除実験を提案し、実行されることになりました。
- ☆市民参加の外来魚駆除イベントには、市民、子供、行政職員が750名の参加があり、意識の高さと市民へのアピール効果があったと実感しています。
- ☆駆除イベントでは、外来魚捕獲は少量でしたが、34種の在来種淡水魚を確認し、木曾三川が生物多様性を保っている優良環境であることを確認しました。外来魚の捕獲は少数とはいえ、特定外来魚を各所で確認しており、憂慮すべき事態と改めて認識しました。

団体紹介

住民参加の川づくりを推進するため、行政と市民の連携ができる場の提供を、活動目標としています。河川の勉強会が活動の中心でしたが、一昨年から河川の特定外来魚駆除にも取り組み始めました。また、会員中心の活動から市民参加型の活動への転換を目指し、環境関連の住民団体の参加を得て活発に動き始めています。

設立年：平成11年
 構成員：個人 48名 6団体 オブザーバー15自治体
 住所：〒502-0071 岐阜市長良 3050-15
 木曾三川フォーラム事務局
 E-mail：kisosansenn_ho@kvj.biglobe.ne.jp
 TEL：090-7697-3508 / FAX：058-232-7676

VOICE

市民参加の外来魚駆除イベントには、市民、子供、行政職員が750名の参加があり、意識の高さと市民へのアピール効果があったと実感しています！



G06 岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ
外来魚の駆除

岐阜県

駆除

普及啓発

取組内容

◎希少種であるウシモツゴを放流した池や放流予定の池などを対象に、秋に池干しを実施し、外来魚の駆除を行っています。

対象種：オオクチバス、ブルーギルなど

駆除方法：秋の池干し、捕獲

◎外来魚の駆除活動に併せて、地元小学生などを対象に、現地で勉強会を開催し、普及啓発に努めています。

《活動地域》

関市、美濃市における農業用ため池



工夫点

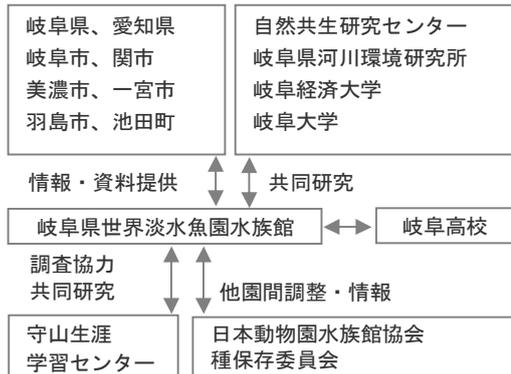
他団体との連携

複数組織による取り組みにおいては、各機関の組織としての限界を理解し、無理な強要はせず、成果は皆で共有する意識を大切にしています。

活動成果

☆池干しを繰り返し行うことにより、外来魚の生息数が0になりました。

交流・連携図



団体紹介

岐阜県河川環境研究所、関市・美濃市、市民団体等で組織された「ウシモツゴを守る会」の活動として、親魚交換会開催、放流池生息調査、放流予定地選定、放流、外来魚駆除を行っています。

設立年：平成16年
住所：〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町1453
河川環境楽園内
URL：http://www.aquatotto.com
E-mail：HPの問い合わせフォームより連絡可能
TEL：0586-89-8200(代) / FAX 0586-89-8201(代)

VOICE

岐阜県の自然環境、河川環境を楽しく学び、考える環境学習実践の場として、また、地域交流の拠点となることを目的として活動しています！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



G13 NPO 法人 リバーキーパージャパン 外来魚の駆除

岐阜県

駆除

普及啓発

政策提言

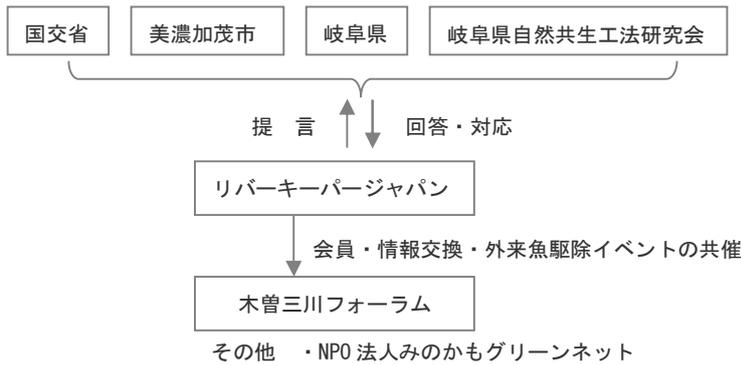
取組内容

- ◎外来種駆除についての提言を行っています。
※木曾三川流域の拡散状況における対策は、無精卵化対策（不妊個体の放飼）が最良と考えています。
- ◎市民参加型の特定外来種駆除イベント（太郎洞調整池）を実施しています。
駆除方法：池干し、捕獲
- ◎イベント時、外来種についての講習を実施しています。

《活動地域》
木曾三川流域



交流・連携図



団体紹介

河川流域の豊かな自然を保全するため、自然を適切に評価出来る市民意識の醸成を図る活動・体験学習などを通じて、次世代の教育活動・生態系の保全技術の研究を実施しながら、岐阜県と協働での木曾三川流域の放置水田の復元提案や、オオクチバスやアライグマ等の特定外来種駆除についての政策提言を行っています。

設立年：平成 15 年
 構成員：個人 11 名
 住所：〒505-0042 岐阜県美濃加茂市太田本町 3-3-37
 TEL：0574-26-0030 / FAX：0574-26-0030

VOICE

木曾三川流域外来種駆除については、現状の拡散状況における対策は、無精卵化対策（不妊個体の放飼）以外にないと考えています！



M05 東海タナゴ研究会
外来魚の駆除

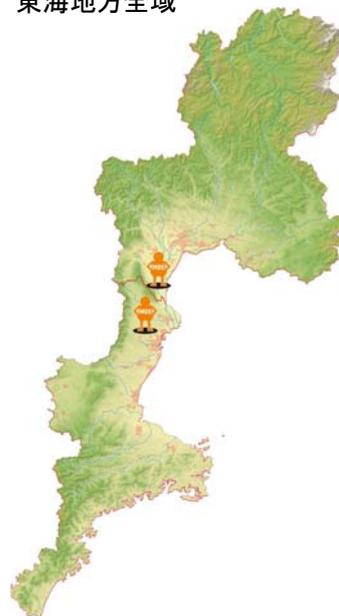
三重県

観察・調査研究

駆除

普及啓発

《活動地域》
東海地方全域



取組内容

- ◎天然記念物指定のため池で、希少種と外来魚が同時に確認され、以後毎年、**地元の農業団体と共同で外来魚の駆除**を行っています。また、単に駆除だけでなく、**目指すべき生態系の合意形成**を行っています。
- ◎希少種の保全池として活用しやすい池や、バス釣りで知られた池などを中心に、**地元の活動団体と連携し**、年3回程度、市内各所で駆除を行っています。
対象種：オオクチバス、ブルーギルなど
駆除方法：池干し・捕獲
処分方法：**市の回収、農家の方に埋設依頼、標本にする**
- ◎駆除活動と共に、**在来種の復元放流**を行い、モニタリングを実施しています。
- ◎現地での活動では**地域の子供たちに参加を呼びかけ**、普及啓発に努めています。

工夫点

他団体との連携

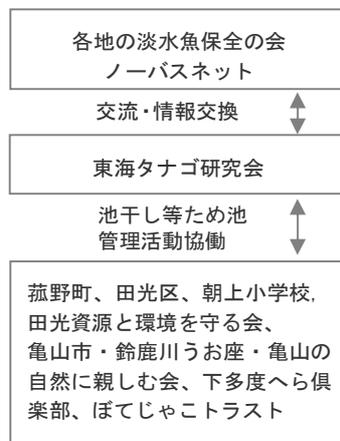
各地の淡水魚保全の会、ノーバスネットと交流し、情報交換を行っている他、池干し等、ため池管理活動を多数の他団体と協同で実施しています。また活動は、自治体、農業団体、地元企業と積極的に連携するよう心掛けています。

地域主体の運営を目指して

私達は、モニタリングや管理の提案や枠組みなど、専門性をもったアドバイザーとして活動し、管理については、地域主体で実施する持続的な運営を目指しています。

地域コミュニケーションの場づくり

活動に併せて、地元の方々による炊き出しなどを行ってもらうことで、保全と外来種の駆除活動が、地域のコミュニケーションの場としても活用されています。



団体紹介

メンバーは学生や若い研究者が中心です。地域住民による生物多様性保全を目標として提案・活動を行いながら、メンバーそれぞれが専門性を磨き、地域コーディネーターとして成長していくことを目指しています。持続可能をキーワードに、身近な自然を軸としたまちづくりへの提案も行っています。

設立年：平成16年
 構成員：個人23名
 住所：〒510-1231 三重県三重郡菰野町神森1029
 淡水魚研究センター内
 URL：<http://toukai-tanago.web.fc2.com/about/tokai.html>
 E-mail：kazetoge@gmail.com
 TEL：090-3726-3514 / FAX 059-393-5795

VOICE

科学的な里川管理を構築するため、保全の前提となる、生態学的な調査にも力を入れています。COP10をふまえ「第5回全国タナゴサミット」を開催予定！

外来植物

外来哺乳類

外来哺乳類

鳥類

鳥類

外来爬虫類

外来爬虫類

外来両生類

外来両生類

外来魚介類

外来魚介類

外来貝類

外来貝類

昆虫類

昆虫類



M09 水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座 外来魚の駆除

三重県

駆除

普及啓発

《活動地域》

鈴鹿川流域、中ノ川流域
(亀山市、鈴鹿市、四日市)

取組内容

- ◎平成16年より、水利権者と共同で、毎年1~2つ程度のため池の水を完全に抜き、外来魚の駆除を実施しています。(10箇所を実施)
駆除方法：池干し・石灰散布
処分方法：大型魚は焼却処分または、山林にて埋立処分
小型魚は石灰散布に伴い、池に沈むが、翌日鳥が捕食
- ◎外来魚情報交換会で活動発表を行っています。



工夫点

外来魚の駆除と在来魚の放流

池干しと外来魚の駆除実施後、在来魚の放流を行っています。

他団体との連携

希少種の保全、外来魚駆除において、「東海タナゴ研究会」、「魚と子どものネットワーク」、「三重大学研究室」等と連携して取り組んでいます。

水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座

連携

東海タナゴ研究会
魚と子どものネットワーク
三重大学研究室

活動成果

- ☆10箇所実施したため池の池干しでは、8箇所について、完全に外来魚を駆除し、在来魚の放流により、本来の生態系が回復されました。
- ☆外来魚駆除活動は環境学習を含めて実施していることから、地元の理解が深まっていると感じます。

団体紹介

水辺について考え、行動を始めることにより、その環境を改善し、身近に親しめる豊かな自然と生態系を持つ水辺を取り戻したいと活動を開始し、鈴鹿川及び中の川水系において、魚類相調査、在来魚保護活動・外来魚駆除活動、水生生物の生息及び遡上環境の改善を目的とした魚道整備促進活動等を実施しています。

設立年：平成14年
構成員：個人 6名
URL：<http://www.ztv.ne.jp/web/cherry/>
住所：〒519-0116 三重県亀山市
E-mail：uoza_suzukagawa@yahoo.co.jp

VOICE

10箇所実施したため池の池干しでは、8箇所について、完全に外来魚を駆除し、在来魚の放流により、本来の生態系が回復されました！



M10 宮川用水土地改良区 管理課
外来魚の駆除

三重県

駆除

普及啓発

取組内容

◎オオクチバスの生息が確認されている溜め池について、外来種駆除及び、釣り人によるゴミ投棄の対策として、地元主体の農地・水・環境保全向上対策事業により、溜め池の池干しを兼ねた外来種駆除活動を実施しました。

対象種：オオクチバス、ブルーギルなど
駆除方法：池干し・石灰散布
処分方法：土中への埋設処分

◎駆除後、コイの放流を行い、宮川用水土地改良区にて釣り禁止の啓発看板の設置を行いました。

《活動地域》

三重県多気郡明和町
斎宮調整池



工夫点

他団体との連携

皆伐後の未造林地の増加や災害による崩壊地の発生したことから、緑化を目的とした「大台町苗木生産協議会」が発足しました。現在では、「水源地の保全」を目指して、様々な活動で連携しています。



活動成果

☆約 100 匹の外来魚を駆除し、在来種の生息環境を復元しました。

団体紹介

宮川沿岸地区は、水量豊富な宮川を控えていましたが、水面より耕作地より低いため取水することができず、ため池・井戸等の小規模施設での営農で水不足に悩まされていました。そこで、灌漑用水安定供給のため、宮川用水事業により灌漑施設が建設されました。われわれは、その維持管理を行うため設立された団体です。

設立年：昭和32年
構成員：個人 17名、団体 1団体
URL：<http://miyagawa.cc/dokokara.html>
住所：〒516-0009 三重県伊勢市河崎1丁目11-8
E-mail：HPの問い合わせフォームより連絡可能
TEL：0596-28-6155 / FAX：0596-28-9083

VOICE

農地・水・環境保全向上対策事業と連携し、地域住民に地域の環境について、さらなる関心を持ってもらいたいと思っています！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



陸水生態系

M12 NPO法人 流域環境保全ネットワーク 外来魚の駆除

三重県

駆除

取組内容

- ◎外来魚を池干して駆除し、そこに生息していたカワバタモロコや、イチモンジタナゴを再導入しました。
対象種：オオクチバスなど
駆除方法：池干し、捕獲

工夫点

外来魚の駆除と在来魚の放流

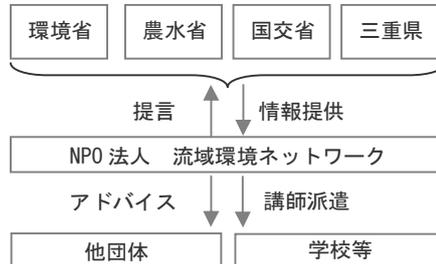
池干しと外来魚の駆除実施後、在来魚の放流を行っています。

地域住民との協働

アドバイザーのような立場で提言などを行うことで、地域の方々にも協力して取り組んでいただいています。

他団体との連携

国、自治体への提言を行うと共に、情報提供を受けています。また、他団体へのアドバイスや、学校等への講師派遣を実施しています。



《活動地域》

松阪市



活動の様子

写真提供：
流域環境保全ネットワーク

活動成果

☆外来魚の駆除後、在来魚を導入し、在来種の生息環境を復元しました。

団体紹介

会員の中心である学識者の調査研究活動により得られた科学的な根拠に基づく流域自然環境保全の施策の提案や、地域住民や行政と協働しての保全・復元活動により、地域社会の活性化と健全な自然観を育成することを目的としています。池干してブラックバスを駆除し、生息していたカワバタモロコを戻すなどの活動も行っています。

構成員：個人 14名
URL：http://ryuiki.net/index.php
住所：〒519-2143 三重県松阪市中万町1281
E-mail：kanri@ryuiki.net
TEL：090-7108-3394

VOICE

活動を通じて、淡水魚類が関わる河川環境、ひいてはあらゆる自然環境の本質的な保全に寄与できるものと、期待しています！



101 石川県夕日寺健民自然園
外来魚介類の駆除

石川県

駆除

普及啓発

取組内容

◎放置された棚田をトンボサンクチュアリーとしましたが、人為的に外来魚、アメリカザリガニが移入され、大繁殖しました。これを受けて、トンボ保護を目的に釣りを奨励し駆除に協力してもらっています。

対象種：オオクチバス、アメリカザリガニ

駆除方法：釣りの奨励

処分方法：

アメリカザリガニは、カメを飼育している近所の方にエサとして引き渡す

《活動地域》

金沢市夕日寺



工夫点

他団体との連携

人材確保については、広くボランティアを募集するとともに、各種林業団体の協力を得ています。また、夕日寺自然園を市民グループに提供しながら、交流を深めています。



活動成果

☆ブラックバス約 400 匹、アメリカザリガニ約 8000 匹を駆除しました。

団体紹介

夕日寺健民自然園は、失われつつある里山の自然を保全するとともに、そこに生きる動植物に親しむ場として、金沢市夕日寺町で、昭和 55 年度から整備を進めてきました。面積は約 77ha で、これまでに自然観察歩道、ふれあいセンター、芝生広場、化石の広場、トンボアサンクチュアリーなどが整備されています。

設立年：昭和 55 年
 構成員：個人 4 名
<http://www.pref.ishikawa.jp/sizen/satoyama%20new/yuhidera1.htm>
 住所：〒920-0823 石川県金沢市夕日寺町ハ-116
 E-mail：yuhidera@bz03.plala.or.jp
 TEL：076-251-7554 / FAX：076-251-7554

VOICE

夕日寺自然園は、都市周辺に位置し、身近な里山として県民に親しまれています。県の里山活動のモデル施設として、里山の利活用がテーマです！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



陸水生態系

104 鴨池観察館友の会 外来魚の駆除

石川県

観察・調査研究

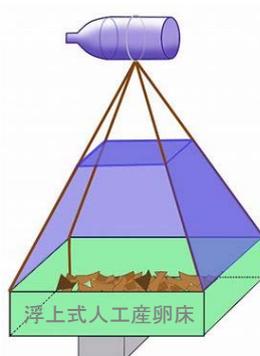
駆除

普及啓発

取組内容

◎平成18年オオクチバス等防除モデル事業（3年間）の指定を受け、特定外来種の効果的な防除方法（浮上式人工産卵床）について研究・成果発表を行うほか、普及啓発に努めました。

対象種：ブルーギル、オオクチバスなど
 駆除方法：捕獲、人工産卵床の設置
 処分方法：冷凍処分、
 各種計測後焼却処分



《活動地域》
 加賀市片野町片野鴨池
 下福田貯水池



工夫点

生態研究から駆除方法を開発

ブルーギル、オオクチバスの生態を調べることにより、漁具や駆除時期など、効果的な駆除方法※を研究開発し、成果を発表しました。※急峻な沿岸地形と灌漑期の大きな水位低下という、マニュアル通りに人工産卵床を設置しにくい状況を解決するために人工産卵床を水面に浮かせる「浮上式人工産卵床」を考案しました。

外来魚種の普及啓発

外来種についての紙芝居や釣りゲーム等を作成し、普及啓発に活用しました。

自作の道具でコスト削減

定置網や地引網を自作し、コストを抑えました。

他団体との連携

平成17年市の助成を受けた「片野鴨池周辺地域保全連絡協議会」が設置され、鴨池に関わる団体が集まって話し合うことができ、県を越えて環境保全についての情報交換や交流が展開されています。



浮上式人工産卵床



浮上式人工産卵床 水中の様子

写真提供：鴨池観察館友の会

活動成果

- ☆「片野鴨池式オオクチバス等防除マニュアル」を作成しました。
- ☆ブルーギル 2038 匹、ブラックバス 141 匹を駆除しました。

団体紹介

日本有数のガン・カモ類の越冬地で、ラムサール条約登録湿地でもある鴨池の自然を将来に残すために、環境保全活動や普及啓発活動を行っています。例えば、冬期に田んぼに水を張って鳥類の冬期間の餌場を作ることや、外来魚の防除を行うほか、自然観察会や、稲作体験などのイベントを行っています。

設立年：昭和63年
 構成員：個人 50名
 URL：<http://www.wbsj.org./sanctuary/kamoike/>
 住所：〒922-0564 石川県加賀市片野町子2-1
 鴨池観察館
 E-mail：kamoike@wbsj.org
 TEL：0761-72-2200 / FAX：0761-72-2935

VOICE

オオクチバスの駆除について、急峻な沿岸地形と灌漑期の大きな水位低下という状況でも、人工産卵床を設置し、駆除が可能な「浮上式人工産卵床」を独自開発しました！



M09 水辺と生き物を守る農家と市民の会 外来魚介類の駆除

福井県

駆除

取組内容

◎ため池やダムなどで、外来魚の駆除及び、生物層調査を実施しています。
 対象種：オオクチバス、アメリカザリガニなど
 駆除方法：池干し、網での捕獲、人工産卵床の設置※、ザリガニ釣り大会による駆除
 ※オオクチバスの産卵時期(5~7月)にあわせて設置し、卵を産ませて、産み終えたところを引き上げ孵化する前に駆除

《活動地域》

白山・坂口地区



工夫点

駆除と研究調査

大学等と共同で、外来種駆除と池の生物相の調査を同時に実施しています。捕獲した外来種は遺伝子解析のサンプルとして活用してもらっています。

自作の道具でコスト削減

外来駆除用の網は、農業用の防鳥用のネットを利用して自作し、経費を削減しました。

交流・連携図



提供：水辺と生き物を守る農家と市民の会 HP より

活動成果

☆ため池で駆除を実施し、100匹以上のオオクチバス(稚魚を含む)を駆除しました。

団体紹介

福井県越前市西部の白山・坂口地区には、絶滅危惧種であるアベサンショウウオをはじめ、メダカやゲンゴロウ、ハッチョウトンボなどの多くの希少な野生生物が生息しています。また今年は、越前市西部地域にくちばしの折れたコウノトリ「コウちゃん」が飛来し40周年を迎えます。わたしたちは、これらの希少種を保全し、人間生活との共生を図ることで、自然・農業そして文化等の相互作用によって、里地里山の活性化を図るために、活動しています。

設立年：平成18年
 構成員：個人83名 3団体
 住所：〒915-1204 福井県越前市都辺町36-84
 しらやまいこい館内
 URL：http://www.abechan.org/
 E-mail：mizubenokai_ikoikan@yahoo.co.jp
 TEL：0778-29-2811

VOICE

「コウノトリ再び福井の空へ」をスローガンに、多くの希少野生生物が生息する、自然豊かな里地里山づくりを目指して活動しています！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



陸水生態系

F10 若狭町産業課 外来魚の駆除促進

福井県

駆除

普及啓発

取組内容

- ◎リリース防止促進のために、**外来魚駆除協力券**の発行を行っています。
- ◎三方五湖の生態系を保全するために、漁協の協力のもと駆除を実施しています。
駆除方法：**釣りの奨励**
処分方法：**廃棄処分、焼却処分**
- ◎各湖、溜め池に**外来魚放流禁止の看板**を設置しています。

《活動地域》

若狭町内三方湖
水月湖、菅湖



工夫点

外来魚を地元限定の商品券と交換

釣り人の協力のもと、釣った外来魚を**商品券（外来魚駆除協力券※）**と交換し、外来魚の再放流の抑制に努めています。※外来魚 300gにつき、100 円の商品券と交換。商品券は町内の指定店で使用することができます。



三方五湖



外来魚駆除協力券

団体紹介

三方五湖ではオオクチバスが確認され、生態系や漁業への悪影響が懸念されています。若狭町では、釣ったオオクチバスをリリースせずに駆除に協力していただけるよう「外来魚駆除協力券」の発行を行っています。このような啓発活動によって、オオクチバスを駆除し、三方五湖の自然環境及び生態系の保全に努めていきます。

設立年：平成 17 年
 構成員：個人 12 名
 URL：http://www-new.town.fukui-wakasa.lg.jp/town/category/category_list.asp?Cate1=1&Cate2=4
 住所：〒919-1393 福井県三方上中郡若狭町中央第 1-1
 E-mail：sangyo@town.fukui-wakasa.lg.jp
 TEL：0770-45-9102 / FAX：0770-45-9119

VOICE

釣ったオオクチバスをリリースせずに駆除に協力していただけるよう「外来魚駆除協力券」＝商品券の発行を行っています！



102 石川の里山生物多様性保全再生事業推進協議会 アメリカザリガニの対策

石川県

駆除

取組内容

◎珠洲市の野々江・若山地区において、外来生物のアメリカザリガニの駆除作業を実施しました。金沢地区の活動団体に作業に加わってもらい、駆除作業のノウハウを学びながら、交流を深めました。

駆除方法：水際作戦での採取

処分方法：体長を計測した後、処分

《活動地域》

金沢市四十万地区
角間地区、夕日寺地区



工夫点

☞ 団体間の連携

行政、大学、市民など15もの団体が連携して1つの事業をやる例は、県内では他にありません。能登の活動に人手が足りない時、金沢の活動団体が参加するなど、良好な関係ができています。

石川の里山生物多様性 保全再生事業推進協議会

- ・自治体
石川県、金沢市、珠洲市、輪島市
- ・研究機関
金沢大学、国連大学高等研究所
- ・活動団体
いしかわ・かなざわオペレーティングユニット、金沢森林組合、環八会、いしかわ里山保全活動リーダー会、金沢市四十万校下赤十字奉仕団、金沢ふるさと愛山会、能登にトキとコウノトリを呼ぶ会、NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海、輪島市ビオトープ研究会、石川県民退職者連合

活動成果

☆アメリカザリガニ 213 匹を駆除しました。

団体紹介

石川県内における里山の生物多様性の保全再生等に資するため、金沢市近郊の里山および奥能登のため池群での希少種保護のプロジェクトとして県が主導で立ち上げました。石川県内の里山の保全・再生のため、ギフチョウ等の生息地となっている金沢市の丘陵地において、雑木林や竹林の整備を行っています。また、シャープゲンゴロウモドキなどが生息する奥能登地区において、アメリカザリガニなどの外来種の防除やビオトープの整備などを実施しています。

設立年：平成20年
構成員：15団体
住所：〒920-8580 石川県金沢市鞍月1-1
石川県環境部自然保護課
E-mail：e170500@pref.ishikawa.lg.jp
TEL：076-225-1477 / FAX：076-225-1479

VOICE

市民団体や研究機関、行政等が協働し、環境省「地域生物多様性保全活動支援事業」を活用し、里山における希少種の保全再生を目指すモデルプロジェクトを実施しています！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



陸水生態系

F02 NPO 法人 ウェットランド中池見 アメリカザリガニの駆除

福井県

駆除

普及啓発

取組内容

◎農耕が行われていた頃には、アメリカザリガニの生息は確認されていませんでしたが、開発計画と共に侵入したようです。現在繁殖が顕著で、捕獲駆除を行っています。

駆除方法：魚かご（かごわな）の設置

処分方法：捕獲後、熱湯殺処分

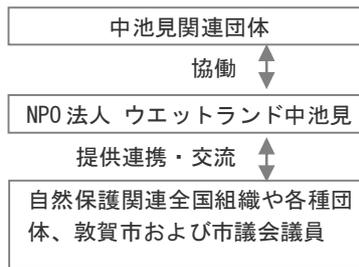
少量の場合は鳥のエサにしている

◎動植物の持ち込み、持ち出し禁止の立て看板を設置しています。

工夫点

他団体との連携

自然保護関連全国組織や各種団体、敦賀市および市議会議員と連携・交流しています。また、中池見ねっとなど、中池見関連団体と協働で湿地の管理を行っています。



活動成果

☆アメリカザリガニの駆除は、最大1万匹／年に上ります。

《活動地域》
敦賀市中池見湿地



中池見湿地



団体紹介

中池見湿地の環境保護・保全事業を行ない、自然環境教育の場として社会教育やまちづくりの推進を図ることを目的としています。環境省事業「重要生態系監視地域モニタリング推進事業」里地分野コアサイトとして調査事業5年目で、貴重種保全や外来種駆除等の活動や、学校・各種団体の体験学習や観察会支援等を実施しています。

設立年：平成15年
構成員：個人 130名
URL：<http://nakaikemi.jp/>
住所：〒914-0047 福井県敦賀市東洋町6-37
E-mail：scasasaki@rm.rcn.ne.jp
TEL：0770-23-5003 / FAX：0770-23-5003

VOICE

中池見の調査結果が活用され、保全・再生・復元が科学的な根拠を持ったものになることを望んでいます！



F07 NPO 法人 中池見ねっと アメリカザリガニの駆除

駆除

普及啓発

取組内容

◎開発計画の進行に伴い、アメリカザリガニが異常繁殖し、保全エリアで造成した人工池が繁殖池となり、湿地内に大量生息する状況が続いていたため、駆除を実施しています。
駆除方法：ザリガニ釣りの奨励（現在は中止）
魚かご（かごわな）の設置



工夫点

魚かごで、在来種への興味関心を引き出す

ザリガニの捕獲は魚かご（かごわな）を利用しています。ザリガニ釣りでは、参加者の外来種についての意識変革は難しいですが、魚かごの場合は、アメリカザリガニ以外の保護すべき生物を確認しながら、駆除活動を展開することができます。

他団体との連携

「中池見ねっと」は、地元の椋曲区と中池見会、大阪ガス造成の保全エリア管理会社、NPO ウェットランド中池見から個人で参加し、連合組織として設立されました。

平成 22 年度からは、敦賀市と事業委託・受託の関係で、連携しています。



活動成果

☆平成 20 年に 2500 匹、平成 21 年に 8400 匹、平成 22 年 7 月 20 日現在 400 匹を駆除しました。
☆ザリガニ釣りで異常繁殖に歯止めがかかり、クロスジギンヤンマのヤゴやハイイロゲンゴウロウなど、在来種の生息確認が増加しました。

団体紹介

中池見湿地の保全と管理に関する事業を行っています。絶滅危惧種を含む生物多様性の保全及び湿地の持続可能な利用を回り、自然と人間が共生できる豊かな社会の実現を目的として、平成 22 年からは、敦賀市の「市民による中池見の管理・運営・活用事業」を受託して、貴重種保全や外来種駆除等、中池見湿地の保全管理にあたっています。

設立年：平成 20 年
 構成員：個人 50 名
 URL：<http://www6.plala.or.jp/nakaikeminet/>
 住所：〒914-0005 福井県敦賀市椋曲 79 奥堀切
 中池見人と自然のふれあいの里気付
 E-mail：masuda.sigeru@amber.plala.or.jp
 TEL：090-8269-9801 / FAX：0770-22-2723

VOICE

中池見の生き物をお家で飼育したり、アメリカザリガニ防除のかごを 1 年間、無料で引き上げることができる、「中池見キッズいきものサポーター制度」をつくりました。自然尊さに気づくきっかけになれば嬉しいです！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



外来植物



外来哺乳類



鳥類



外来爬虫類



外来両生類



外来魚介類



外来貝類



昆虫類



中部地域で問題になっている 外来貝類の対策

中部地域では、特定外来生物であるカワヒバリガイ属や要注意外来生物であるジャンボタニシが確認されています。

競争や捕食による在来巻貝を含む水生生物群集への影響のほか、水生植物の食害による農業被害なども懸念されています。大量発生、仮眠などの特性をもつ貝類の駆逐は難しく、駆除手法の検討が求められています。

■ 外来貝類の対策－外来種図鑑

対象種の例		頁
カワヒバリガイ	特定外来生物	2-169
ジャンボタニシ	要注意外来生物	2-170

■ 外来貝類の対策－活動団体

取り組み	活動団体	地域	頁
カワヒバリガイの調査	愛知工業大学 都市環境学科 河川・環境研究室	愛知県	2-171
ジャンボタニシの駆除	本戸5Hプロジェクト	岐阜県	2-172

中部地域で問題になっている外来貝類

カワヒバリガイ

イガイ目イガイ科
学名：*Limnoperna* 属
特定外来生物

外来種

種の特徴

東アジアから東南アジア原産。殻長 2~3cm の淡水棲のイガイ科の二枚貝。足糸という繊維状物質を分泌して付着基盤に固着する。硬基質や他の生物に固着する習性がある。

寿命は、京都府宇治川および香港では 2 年、韓国では 4~5 年、中国では 10 年以上。主要な種は浮遊幼生期を持つことが知られ、水域を通じて広範囲に拡散する。



定着と分布

昭和の終わり頃に、中国から輸入されたシジミ類に混入。野外では平成 2 年に揖斐川で初めて確認され、現在は木曾三川、琵琶湖及びその下流の淀川などに定着している。

影 響

- ・ 大量発生などによる急激な水質悪化から、在来生物群集の生息地を圧迫する懸念がある。
- ・ 砂地、泥場に生息するイシガイ科の二枚貝の殻が本種の付着基盤になる可能性があり、固有種の多い二枚貝類に付着し、呼吸・摂餌障害により生息できなくなる可能性がある。
- ・ 吸虫類の第一中間宿主であり、魚病被害による固有種などの希少魚類への影響が懸念される。

対 策

- ・ 採取、捕獲による駆除

中部地域で問題になっている外来貝類

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

リンゴガイ科

学名：*Pomacea canaliculata*

要注意外来生物

外来種

種の特徴

南米原産。最大殻高 8cm 近くに達する淡水性巻貝。雑食性で、植物質のほか動物の死骸や菌類も摂食し、食物の選好性が幅広く、摂食量も多い。

水面より上にピンク色の卵を産卵する。環境条件が良ければ、2ヶ月程度で成熟し、3、4日に一度産卵する。産卵は2～3ヶ月続き、生涯に数千個の卵を生むことが可能である。

乾燥耐性が強く、半年以上の仮眠に耐える。



写真提供：愛知県

定着と分布

昭和 56 年に台湾から食用として導入され、養殖場から野外に逸出した。関東以南に広く分布している。その後の分布拡大には、基盤整備の際の土壌混入、ペットとして飼育された貝の逃亡、釣餌用具の放置、雑草防除に利用している農家による放飼などの人為的要素も大きく関与している。

影響

- ・ 水生植物を食害し、生態系や農業に被害を及ぼすおそれがある。
- ・ 競争や捕食により、在来巻貝を含む水生生物群集に影響を与える可能性がある。

対策

- ・ 水稻への食害を防ぐための薬剤や、誘因捕獲システムの利用
- ・ 植物防疫法に基づき、検疫有害動物として日本への輸入禁止
- ・ 農林水産省から各都道府県に対して、被害防止対策として、水田、河川等に生息しているものを処分する等の指導
- ・ 正しい取り扱いについての啓蒙活動



A01 愛知工業大学 都市環境学科 河川・環境研究室
カワヒバリガイの調査

愛知県

観察・調査研究

取組内容

- ◎平成17年から毎年、矢作川全域で分布調査（定時間採集、定量採集）を実施しています。
- ◎平成18年には、「カワヒバリガイと造網型トビケラ類の湿重量の関係」について研究を行いました。
- ◎研究成果は卒業研究としてとりまとめ、HPで公開しています。

活動成果

- ◎平成18年卒業論文
「矢作川におけるカワヒバリガイの分布調査」
田中良樹、土井幸二、松浦陽介
<http://aitech.ac.jp/~riv-env/kako.htm>

《活動地域》

愛知県豊田市、岡崎市
岐阜県恵那市の矢作川全域



団体紹介

主に矢作川中上流域をフィールドとして、河川とその周辺環境に関する研究をしており、土砂移動や河床材料の変化なども見据えて展開しています。現在は矢作川全域でカワヒバリガイの調査を実施しているほか、平成13年～平成21年に大学付近の小川においてホトケドジョウの調査を実施し、結果を発表しました。

設立年：平成13年
構成員：個人 35名程度
URL：<http://aitech.ac.jp/~riv-env/>
住所：〒470-0392 愛知県豊田市八草町八千草1247
愛知工業大学 工学部 都市環境学科
E-mail：s-uchida@aitech.ac.jp
TEL：0565-48-8121(内線2521) / FAX：0565-48-0030

VOICE

大学の研究室の活動です。主に矢作川中上流域をフィールドとして、河川とその周辺環境に関する研究をしており、土砂移動や河床材料の変化なども見据えて展開しています！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



G12 本戸5Hプロジェクト ジャンボタニシの駆除

岐阜県

駆除

取組内容

◎農地・水・環境保全向上対策事業のモデル地区に指定されたことをきっかけに、ジャンボタニシ駆除を、毎年7月下旬に地域住民で（非農家も参加）実施しています。

駆除方法：陸上に産卵されたジャンボタニシの卵を、木や竹等で潰し、水中へ落とす

《活動地域》

輪之内本戸の地域内の小水路、たいしょう池



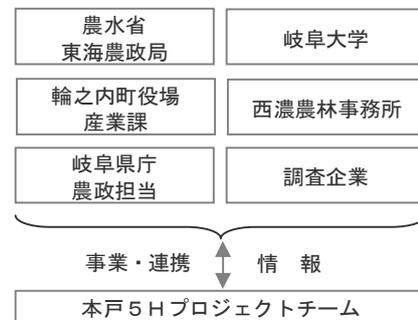
工夫点

☞ 団体間の連携

各自治体や団体と事業を通じて関係を構築し、隣集落と生物多様性に関するワークショップの実施や合同会議、情報交換等を行っています。

☞ 駆除の期間を設定

広報誌等で駆除期間を定め、一斉駆除を実施しています。



活動課題

★ジャンボタニシの卵潰しによる駆除は、輪之内町全域で行われていますが、残念ながら年々増加傾向にあり、対策方法の検討が必要になっています。



ジャンボタニシの卵

写真提供：愛知県

団体紹介

輪之内町本戸が、岐阜県西濃農林事務所より農地・水・環境保全向上対策モデル事業の「指定地域」に選定されたのを機に設立され、カワバタモロコの生息環境保全のため、保全池と保全水路内の見回り、ごみ上げ、監視等を実施しています。

設立年：平成18年
 構成員：個人31名 8団体
 住所：〒503-0232 岐阜県安八郡輪之内町本戸212
 輪之内本戸土地改良組合
 石川県環境部自然保護課
 E-mail：hiroshi@wine.ocn.ne.jp
 TEL：0584-69-2721 / FAX：0584-69-2721

VOICE

本戸5Hプロジェクトの5Hとは、Hondo(本戸地区)が、Heart(心)とHealth(健康)のHarmony(調和)がとれて、Happy(幸せ)になることを願ってつけられました！

外来植物

外来哺乳類

鳥類

外来爬虫類

外来両生類

外来魚介類

外来貝類

昆虫類



中部地域で問題になっている 外来昆虫類の対策

中部地域では、特定外来生物であるアルゼンチンアリ、セアカゴケグモが確認されています。

これまでに、アルゼンチンアリは在来種へ影響を与えた事例が報告されており、セアカゴケグモについては、港や空港付近で多数発見され、毒による人への被害が懸念されています。

各地で殺虫剤や毒餌などを用いて駆除活動が進められていますが、駆逐に到る有効な手立が見つからないのが現状です。

■ 外来昆虫類の対策－外来種図鑑

対象種の例		頁
セアカゴケグモ	特定外来生物	2-174
アルゼンチンアリ	特定外来生物	2-175

中部地域で問題になっている外来昆虫類 セアカゴケグモ

クモ目ヒメグモ科
学名 : *Latrodectus hasseltii*
特定外来生物

外来種

種の特徴

オーストラリア原産。成熟した雌の体長は、約 0.7~1cm。全体が黒色で、腹部の背面に目立った赤色の縦条がある。ゴケグモ属の最も簡単な、形態的な区別点は、腹部腹面の斑紋が赤色ないし薄色の四角形~砂時計形~双三角形であることと、糸器の間突起が大きいことである。毒を有するのは雌のみであり、雄は無害である。

日当たりが良く、地面のある広い場所であれば、コンクリート建造物や器物のあらゆる窪みや穴、裏側、隙間、管渠、アングル部分に営巣する。



定着と分布

平成5年に大阪ではじめて確認された。港湾地域又は、それに接する地域で多く発見されており、国内では、貨物やコンテナ、建築資材、自動車等に営巣したものが人為によって運ばれた結果、生息域が広範囲に拡大されたと考えられる。関西地方を中心に分布が拡大している。

影響

- ・ 競合、捕食による在来生態系への影響が懸念される。
- ・ 人の生命又は身体に関わる被害が発生する懸念がある。刺咬により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、リンパ節が腫張する。通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。

対策

- ・ ピレスロイド系のスプレー式殺虫剤を用いての駆除

中部地域で問題になっている外来昆虫類

アルゼンチンアリ

ハチ目アリ科

学名 : *Linepithema humile*

特定外来生物

外来種



種の特徴

南アメリカ原産。体長は約 2.5 mm、体色は淡黒褐色。多女王制で大きなコロニーを形成し、繁殖力が強い。働きアリの活動温度帯は 5~35℃である。女王アリの産卵能力は日に 60 卵。主に分巢によって分布を拡大する。

攻撃性が強く、他種のアリの巣を見つけるとこれを襲って、その巣の成虫、幼虫を含め、まるごとエサにする。ゆえに、本種の蔓延した地域では在来のアリは激減する。

「世界の侵略的外来種ワースト 100」、「日本の侵略的外来種ワースト 100」に選定されている。



定着と分布

交易物資に付着し、分布を拡大したと考えられる。平成 5 年に広島県で最初に確認され、現在、分布を拡大している。積荷や鉢植えなどの中に侵入するため、非意図的な導入が起こりやすい。

影 響

- ・ 競争力が強く、本種が侵入すると他の節足動物等の個体数が減少する。広島では、在来アリの生息数が減少し、他種のアリを駆逐した例が報告されている。

対 策

- ・ 殺虫剤、毒餌を用いた駆除

《参考文献一覧》

- 「レッドデータブックあいち 2009 動物編－愛知県の絶滅のおそれのある野生生物－」愛知県, 2009 年
「レッドデータブックあいち 2009 植物編－愛知県の絶滅のおそれのある野生生物－」愛知県, 2009 年
「三重県レッドデータブック 2005 動物編」三重県, 2005 年
「三重県レッドデータブック 2005 植物・キノコ編」三重県, 2005 年
「岐阜県の絶滅のおそれのある野生動植物」岐阜県, 2001 年
「岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）改訂版」岐阜県, 2010 年
「改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック〈植物編〉2010」石川県, 2010 年
※単子葉植物についてはレッドリストのみ公開
「改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック〈動物編〉2009」石川県, 2009 年
「福井県の絶滅のおそれのある野生植物－福井県レッドデータブック－（植物編）」福井県, 2004 年
「福井県の絶滅のおそれのある野生動物－福井県レッドデータブック－（動物編）」福井県, 2002 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）哺乳類」環境省, 2002 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）鳥類」環境省, 2002 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）爬虫類」環境省, 2000 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）両生類」環境省, 2000 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）汽水魚類・淡水魚類」環境省, 2003 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）昆虫類」環境省, 2006 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）陸産貝類・淡水産貝類」環境省, 2005 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）甲殻类等」環境省, 2006 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）植物 I」環境省, 2000 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト）哺乳類」環境省, 2007 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト）鳥類」環境省, 2007 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト）爬虫類」環境省, 2007 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト）両生類」環境省, 2007 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト）汽水魚類・淡水魚類」環境省, 2007 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト）昆虫類」環境省, 2007 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト）陸産貝類・淡水産貝類」環境省, 2007 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト）甲殻类等」環境省, 2007 年
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドリスト）維管束植物」環境省, 2007 年
「日本野鳥生態図鑑」保育社, 1995 年
「図鑑日本のワシタカ類」文一総合出版, 1995 年
「日本の両生爬虫類」平凡社, 2002 年
「川の生物図典」山海堂, 1996 年
「日本の淡水魚」山と溪谷社, 1998 年
「日本の外来生物」平凡社, 2008 年
「海域生物環境調査報告書 第1巻 干潟」環境省 自然保護局／財団法人海中公園センター, 1994 年
「外来生物法－特定外来生物による生態系等に係る被害防止に関する法律－」環境省
<http://www.env.go.jp/nature/intro/>